

第1章 研究開発概要

1 研究開発構想名

「やまなし創世」に資するグローバルリーダーの育成
「 Door — 扉を開いて — 」

2 研究開発の目的・目標

甲府第一高等学校は創立140年を迎えた山梨県随一の伝統校であり、強行遠足等の様々な伝統行事を通じて多くの人材を輩出してきた。平成26年度からの5年間にわたりスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受け「主体的に課題を解決できる山梨発！グローバルリーダーの育成」をテーマに、山梨が抱えている後継者不足や人口減少など、本県の産業の活性化を阻害する社会的な課題を手がかりにグローバルな視点を養うとともに、論理的な思考力やコミュニケーション力の向上を目指す取り組みを行ってきた。また、令和元年度は地域との協働による高等学校教育改革推進事業の「地域魅力化型」のアソシエイト校として地域の課題を連携校である笛吹高校と協働的に解決する取り組みを行ってきた。これらの取り組みにおいて、グローバルな視点、論理的・批判的な思考力や判断力、プレゼンテーション能力が高まり、最先端の知に触れ、地球規模の課題について深く学びたいと考える生徒が増えるとともに、山梨に対する愛着が深まり、山梨を理解し発展させたいという気持ちが強まってきている。

今後はこれまでの活動をさらに発展させ、SGHで培ったグローバルな視点を大切に継承しつつ、「地域魅力化型」アソシエイト校で築いたコンソーシアム内での連携を密に「ローカル」な課題をグローバルな視点で考える「グローバル型」への転換を図る。それらの活動を通して将来、県内外または国外からも山梨を活性化させる具体的な提案や活動ができる高度な問題解決能力を有するグローバル人材を育成する。そのために以下の3つを目標とする。

- ①地元自治体や地域産業との密接な連携を強みとする総合制高校との協働実践活動を行い、さらに留学支援団体からの留学生の受け入れや、派遣を積極的に行うことにより外国人と交流する機会を増やし国際的視野を養い、グローバル人材に必要な能力を育成する。
- ②コンソーシアムでの新たな学びの協働プログラムを開発する。
- ③郷土愛を持ち、地域活性化に積極的にかかわり、将来、県内外・国内外を問わず「日本一快適で素敵な県」の創造に貢献できる人材を育成する。

3 研究開発の概要

主に学校設定科目「グローバル探究Ⅰ～Ⅲ」において探究活動を進めていく。まず山梨県総合政策課職員より山梨全体の課題や施策を確認するための講義を受ける。その上で、取りかかりとして、山梨の主要産業の1つである農業についての課題を考える。山梨の農業は、担い手の高齢化や減少に伴い、農業生産額は減少傾向にある。一方、生産(1次産業)だけでなく、加工(2次産業)・販売(3次産業)を取り込む動きが広がり、農業を元気にすることで、関連する産業全体が元気になり、地域の活性化につながると考えられている。そこで、1年次、農林水産省職員からの基調講演を受け、壁新聞の製作、笛吹高校と連携して農業実習を実施、「何ができるのか。どんな問題が考えられるか」等を考察する。その後、農業から派生する「地場産業」「伝統工芸」「ワイン産業」「果樹産業」や「観光」「自然環境」または山梨の様々な社会課題にテーマを広げ、現状の分析や諸外国での取り組みをコンソーシアムと連携して調査・研究を行う。笛吹高校と農業がかかわる課題についての調査・研究の際には農業技術等のレクチャーを受け実質的発展的な探究につなげる。また、調査・研究において甲府一高が考えたプランを笛吹高校に提案し、今後の農業から派生する課題を共に考える契機とする。2年次以降は、山梨県の特長的な機械電子関連等の分野にも目を向け、各々が興味を抱いた様々な分野においてコンソーシアムから情報を得るなどして、1年次に設定した課題の再設定をおこない応用研究につなげていく。これらのプランニングの際には国内外でも周知されているSDGsの視点に基づいて探究のテーマを考える。探究成果は海外研修において英語で発表を行い、自治体・企業等で提案活動や意見交換を行ったり、学会で発表を行ったりする。令和2年度には6月20～21日、日本生活科・総合的学習教育学会全国大会(山梨大会)に本校も会場校と

して参加，生徒の発表も予定している。各生徒は最終的には，探究内容を報告書（論文）でまとめる。地域に貢献できる課題については，普及または後輩へ引き継ぐことを考え，笛吹高校を含め他の高校や地域の小中学校で共有できるようにデータベース化し，閲覧・活用できるようにする。課題探究からコンソーシアムを通じて商品化，スポンサー企業の出現を図る。

地域の小中学校には協働活動を呼びかけ，早い段階で山梨のかかえる問題点や解決方法を学ぶ機会を設ける。また，コンソーシアム推進協議会を通じてワークショップを実施し意見交換を行う。成果発表会では県内外の高校やコンソーシアムを形成している官公庁，企業または小中学校や山梨県在住の海外留学生を交えて発表し意見交換を行う。

国際的なコミュニケーション能力や創造力を強化するために，県内に在住する海外留学生を含めた外国人や中学生および地域の人達とともに，「グローバル社会の中で将来の自分」等のテーマでフォーラムを開催する。地域の人達だけではなく海外も含めた多様な人々と議論を交わす。また，笛吹高校と長期休業中において英語に限らず中国語の外国語講座，および，国際競争力スキルアップ講座（英語）を開催して，英語でのプレゼンテーション能力の向上と中国語等での基礎的なコミュニケーションが可能になるような語学活用能力を高める。

4 学校の概要（設置学科，生徒数等）

課程・学科・生徒数

R2年4月

課程	学科	1年	2年	3年	合計
		生徒数（学級数）	生徒数（学級数）	生徒数（学級数）	生徒数（学級数）
全日制	普通科	180（5）	198（5）	200（5）	578（15）
	探究科	70（2）	70（2）	81（2）	221（6）
	合計	250	268	281	799

教職員・事務員数

R2年4月予定

校長	教頭	教諭	養護教諭	非常勤講師	実習講師	ALT	事務長	事務職員	司書	業務員	非常勤職員	PTA職員
1	2	50	1	9	2	1	1	2	1	2	1	3

5 研究開発の具体的指標

（1）地域人材を育成する高校としての活動指標

（ア）地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして，地域協働推進校となる高等学校等において設定した活動指標

- ・運営指導委員会 3回（6月・1月・3月）
- ・コンソーシアム推進協議会 2回（6月・7月）
- ・研究授業 2回（6月・12月）
- ・地域協働学習実施支援員・海外交流アドバイザーと探究科推進委員会との連携会議 3回（6月・9月・2月）

（イ）普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして，地域協働推進校となる高等学校等において設定した活動指標

- ・成果発表会 1回（3月）
- ・国際探究フォーラム 1回（9月）
- ・中間発表 1回（1年：1月 2年：10月）

（ウ）その他本構想における取組の具体的指標

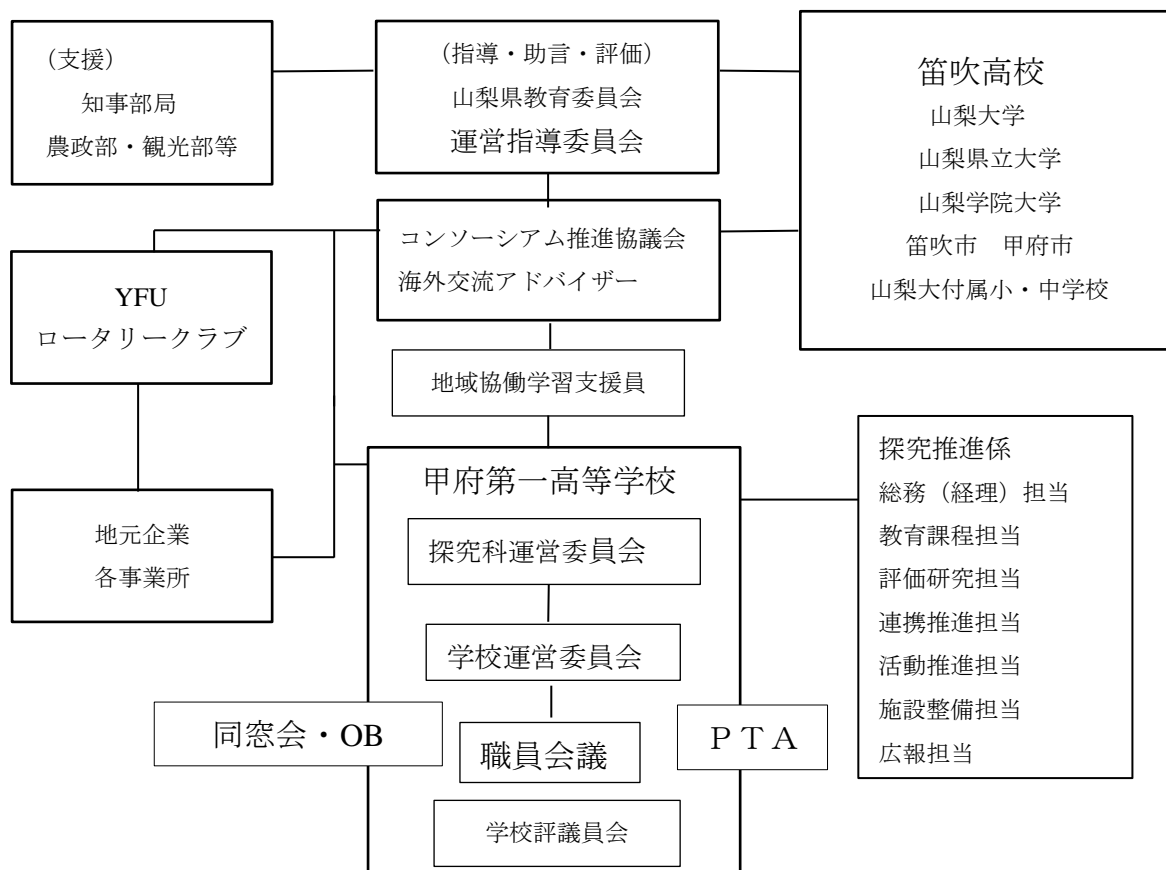
- ・英検2級またはCEFRのB1以上の生徒
- ・将来山梨で働きたいと考える生徒の割合

- ・拠点校主催の発表会等へ外部からの参加者数
- ・校外で開催される研究発表大会またはイベントへの参加数と上位入賞数
- ・学校設定科目（グローバル探究）で地域人材が参画した人数
- ・「トビタテ！留学 JAPAN」採用された件数
- ・外国人留学生の受入れ件数

6 実施体制

(1) 研究開発に係る校内の実施体制

組織図



(2) 教師の役割及び担当する教師等に対する支援体制（校内 推進係）

総務担当	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省，県教育委員会，大学，企業，行政機関との連絡調整 ・連携校，連携機関，各教科，係，学年との連絡調整 ・PTA，同窓会との連絡調整 ・経理（出納管理執行，予算書作成，収支決算書作成）
教育課程担当	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目の運営 ・教育課程の作成 ・授業改善の企画，提案，実践，公開
評価研究担当	<ul style="list-style-type: none"> ・授業および研究結果の評価法の研究開発 ・他校の実践例の情報収集 ・アンケート，各種調査の作成，実施，結果分析 ・研修報告書の企画，作成
連携推進担当	<ul style="list-style-type: none"> ・大学，企業，行政機関との連携の在り方の研究 ・具体的な連携の提案，実施
活動推進担当	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講演会の企画，運営 ・校外研修（実地調査も含む）の企画，運営
施設整備担当	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発や実践に必要な施設，設備，備品の取りまとめ

	・物品選定
広報担当	・生徒，保護者，地域，海外への広報活動 ・ホームページの更新，管理

(3) 海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における役割・位置付け

海外交流アドバイザー

外国人との深いつながりを通じて、国際競争力スキルアップ講座，国際探究フォーラム，海外研修旅行においてグローバルな視点で計画段階からのアドバイザーとしての役割や，本事業について，外国人に広く活動を広めてもらう広報の役割を担う。

地域協働学習実施支援員

各教科や科目・総合的な探究の時間等の実施時における外部（OBや行政，産業界など）と学校と生徒を繋ぐコンソーシアムの潤滑油としての業務をお願いする。

(4) 研究開発の進捗管理，計画・方法の改善方策

管理機関に運営指導委員会，コンソーシアム推進協議会の立ち上げを依頼し，年度当初，年度末に運営指導委員会およびコンソーシアム推進協議会を計画し実施する。本事業の運営に関し評価と専門的見地から指導助言を受け，次年度の事業運営へ意見を反映させていくことで，事業がより深化したものとなるよう支援・改善をしていく。

改善方法として，生徒の評価で用いたループリック，また，教職員，生徒，保護者，コンソーシアムにアンケートを実施して生徒の変容について校内探究科推進委員会を経て，運営指導委員会で評価する。

(5) 成果の検証・評価のための外部有識者等の参画・支援

運営指導委員会，コンソーシアム推進協議会をつうじてコンソーシアムである地元大学，連携校，連携企業および地域の方々による評価・検証を実施する。

(6) 教育課程等の研究開発に関する組織体制整備の実績

平成26年度から5年間のスーパーグローバルハイスクール指定では，山梨県教育委員会において山梨県SGH評価委員会，山梨県SGH運営指導員会の設置，校内においてはSGH推進委員会，SGH推進係を設置し組織体制を整えた。また，昨年度は，山梨県地域との協働による高等学校教育改革推進事業準備委員会を設置した。学校評議員会において指導助言を得る機会を設けている。

7 研究開発計画

(1) 現状分析，仮説及び期待される効果

山梨では少子高齢化が他県に比べて進行が早く，若者の流出，市町村の中心街の衰退など多くの課題がある。一方，豊かな自然に恵まれ，外国人観光客の増加などインバウンド訪問率や訪問数・宿泊者数は全国的に見ても非常に高くなっている。一方，宿泊日数が圧倒的に少ないという課題もある。また，リニア中央新幹線の2027年開通予定，中部横断道も数年後には全線開通を目指し工事が進められている。今後，他県への移動が一層便利になり物流も大きく変わることが予想されるなど，地元山梨は刻々と変化し新たな課題も生まれてくると思われる。SGH指定5年間および地域との協働による高等学校教育改革推進事業「地域魅力化型」のアソシエイト校の1年間において，本校で学ぶ生徒達はグローバルな視点，論理的・批判的な思考力や判断力，コミュニケーション能力が向上したと考える。そして，海外に目を向ける生徒も増えてきた。また，地域の課題に取り組むことにより，山梨に対する愛着が深まり，さらに山梨を理解し発展させたいという気持ちが強まってきた。今後は，これらの成果を発展させ，次のような仮説を設定し，国際的な視野に立って地域課題の解決を協働的に行う。

①コンソーシアムにおいて地域だけではなく，在県外国人，海外の留学生等の多様な

- 人々とかかわり探究活動を行うことにより，異文化理解，課題発見力，論理的思考力，創造力，コミュニケーション能力，発信力が高まり問題解決能力が育成できる。
- ②協働的な取り組みにより，新たな持続可能なプログラムが開発され，県モデルとして地域の発展に貢献できる人材育成を図ることができる。
- ③地域の研究や体験活動，商品開発や政策提案等の取り組みを行うことにより，県政や地域の産業および自然環境に関心を持ち，郷土愛が醸成され，将来県内外および国内外から山梨の活性化につながる具体的な提案や活動ができるようになる。
- ④本事業を通じて教職員の意識改革を図り，教師の指導力の向上，多面的視野の拡大，物事の本質を把握する力の向上により，学校全体として組織的・計画的に研究開発に取り組む体制を構築することができる

第2章 課題研究について

1. 実施内容，実施方法及びスケジュール

(1) 【検証・評価のスケジュール】

- ・運営指導員委員会の検証・評価
 - 6月 事業目的，事業内容の理解
 - 1月 事業の中間報告・検証・評価
 - 3月 成果発表会からの事業評価

- ・コンソーシアム推進協議会
 - 6月 事業目的，事業内容の理解
 - 2月 事業の報告・検証・評価，来年度の事業構想

- ・海外交流アドバイザーと探究科推進委員，地域協働学習支援員との連携会議
 - 6月 事業目的，事業内容の計画（前年度の評価）
 - 9月 中間報告，検証，評価
 - 2月 成果発表会の計画，検証

- ・アンケートによる評価
 - 3月 教職員，生徒，保護者，コンソーシアムを対象に実施

【1年目の実施内容】

- ・1年生「グローバル探究Ⅰ」
- ・2年生「グローバル探究Ⅱ」1年次における「地域魅力化型」のアソシエイト校の探究活動を発展させて実施
- ・3年生「グローバル探究Ⅲ」1年次におけるSGHでの探究活動，2年次の「地域魅力化型」のアソシエイト校の探究活動を基に実施
- ・国際未来探究フォーラムの実施
- ・海外から留学生の積極的な受け入れ
- ・協働プログラムの開発
- ・探究の手引き書の開発

【2年目の実施内容】

- ・1年生「グローバル探究Ⅰ」
- ・2年生「グローバル探究Ⅱ」
- ・3年生「グローバル探究Ⅲ」（1年次の地域魅力化型のアソシエイト校の探究活動を基に実施）
- ・国際未来探究フォーラムの実施
- ・海外から留学生の積極的な受け入れ

- ・協働プログラムの開発
- ・探究の手引き書の改良・評価
- ・新指導要領の対応に関する教育課程の検討

【3年目の実施内容】

- ・1年生「グローバル探究Ⅰ」
- ・2年生「グローバル探究Ⅱ」
- ・3年生「グローバル探究Ⅲ」
- ・国際未来探究フォーラムの実施
- ・海外から留学生の積極的な受け入れ
- ・協働プログラムの開発
- ・探究の手引き書の普及
- ・新指導要領の対応に関する教育課程の決定
- ・事業の総括及び事業終了後の継続的实施に向けた計画の策定

【考えられる主な提案先】

(SGHおよび「地域魅力化型」アソシエイト校の実績等からの予定)

- ・山梨県福祉保健部衛生薬務課 ・山梨県甲府市 ・山梨県早川町 ・山梨県南部町
- ・山梨県身延町 ・ヴァンフォーレ甲府 ・愛媛大学 ・東京工科大学 ・立教大学
- ・ロータリークラブ ・株式会社金精軒製菓 ・南フィリピン大学附属高校 ・相川プレス
エクサスフィリピン ・TOYO フレックスセブコーポレーション

【1年次：山梨を見る】

山梨県総合政策課職員から「山梨政策レクチャー講演」、農林水産省からの講師による「基調講演」や大学講座を連携高校と共有し、県内で先進的な取組をしている企業の訪問、笛吹高校での農業実習等を通じ、山梨県の農業・産業について深く学び、課題を発見する。発見した課題（農業から派生する課題）については、笛吹高校や地域の小中学生と協働して探究活動を行う。課題を通じ、解決策を探究することで基礎的な論理的思考力を養い、発表することで発表するための資料の作成、発表する態度等のプレゼンテーション能力を身に付けることができる。入学直後に実施するオリエンテーション合宿「ウエルカムキャンプ」において、コンソーシアム推進協議会からの講師や海外交流アドバイザーによる課題に対する実践方法・実現可能な事例のレクチャー講座やグローバルな視点を育成する講座を実施し、課題探究に対する基礎的なアドバイスを受ける。また、ワークショップを行い探究について意見交換を行う。連携大学講座は県内大学からの講師等をファシリテーターとして、地域の課題・地域の政策等についてディスカッションを行う。推進校に限らず連携高校や他の高校の生徒に対応できる新たな探究の手引き書「グローバルパスポート」（生徒必携）の開発を連携高校とともに開発する。

4月	ウエルカムキャンプ
5月	山梨政策レクチャー講演，農林水産省基調講演
6月	連携大学での講座
7月	県内企業訪問
8月	連携高校農場での農業実習，国際競争力スキルアップ講座
9月	国際未来探究フォーラム，県内企業人講話，課題決定
10月	実地調査課題研究
11月	実地調査課題研究の整理
12月	中間発表（校内での発表）準備，県内企業訪問
1月	中間発表（校内での発表）
2月	成果発表会
3月	オーストラリア研修 次年度への準備

【2年次：山梨の課題解決に向けたプランづくり】

1年次の課題を再検討し、ワークショップ、ディスカッションや大学教員や大学生、大学院生・海外からの留学生等と交流や指導助言を通して本格的な探究活動が始まる。その後国内での実地調査を行う。12月にそれまでの内容をまとめた中間発表、2月に成果発表会を行う。

課題について笛吹高校や地域の小中学生と共に実地調査を行い、国連SDGsも視野に入れ、山梨の社会課題を解決するためのプランを作成し、各種コンクール等で発表する。また、グローバルな舞台で活躍できる資質を涵養するため、海外研修旅行先において探究成果を英語で発表し意見交換を行う。海外交流アドバイザーからはイングリッシュキャンプの計画における指導助言を得て企画を実行し、国際的コミュニケーション能力を養う。生徒が実地調査に赴く場合は、地域協働学習支援員による指導助言のもと、調査先を訪問する。

4月	課題研究の継続・文献調査・ICTを用いた情報収集
5月	課題研究
6月	連携大学等での講座
7月	カリキュラム開発専門家による講座，課題研究
8月	外国語講座，国際競争力スキルアップ講座，実地調査
9月	国際未来探究フォーラム，実地調査
10月	中間発表準備
11月	中間発表準備
12月	中間発表会，研修旅行（フィリピン）
1月	成果発表会へ向け，コンクール・イベントでの発表
2月	成果発表会（英語で発表），コンクール・イベントでの発表
3月	イングリッシュキャンプ，次年度への準備

【3年次：山梨の魅力为全国へ，世界へ】

プランを深化させ、探究成果を報告書（論文）でまとめるとともに、自治体・企業等で提案活動や実践活動を行う。地域に貢献できる探究活動については、普及または後輩へ引き継ぐ事を考え、連携高校を含め他の高校や地域の小中学校で共有できるようにデータベース化し、閲覧・活用できるようにする。課題探究からコンソーシアムの協力を経て商品化、起業へと発展、スポンサー企業の出現等を図る。

4月	課題研究の深化，研究報告書の作成
5月	課題研究報告書の作成，提案活動の準備
6月	提案活動の準備，提案活動
7月	提案活動，各種コンクールへ
8月～1月	課題の引継ぎ，データ化
2月	成果発表会

2 研究開発内容

（1）地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

□グローバル探究Ⅰ～Ⅲ（1年次：2単位 2年次：2単位 3年次：1単位）

文系・理系にとらわれず教科横断的な取り組みを行い地域の課題（地域社会・地域経済）の解決に向け、グローバル的・科学的な視点を持ったカリキュラムの開発を行う。全ての教科との連携、コンソーシアムの協力のもと、将来的に地元の課題を解決する本校の指導重点と合致したグローバル人材に必要な能力（5視点）の育成を目指す。

【グローバル人材育成のための視点】

甲府一高指導重点（「育てたい「3つの私」）		グローバル人材育成のための5視点
1	おもろい私 主体的に学ぶ 知識を創造のために活用する 考えを表現する	課題発見力 論理的思考力 発信力
2	たくましい私 タリヨク（体力/耐力） 答えのない課題にひるまない 道徳心のある生徒	創造力
3	やわらかい私 複眼的視点を持つ 他者と協働できる 状況に即して自己変容ができる	コミュニケーション力

□学校設定科目

「グローバル探究Ⅰ」

生徒が自ら農業から派生する山梨と関わる様々な課題を見つけ探究活動を行う。連携高校、地域の小中学校とも課題を共有し、実地調査・協働研究等で連携を深め、課題発見力、論理的思考力の向上を目指す。

「グローバル探究Ⅱ」

生徒が1年次に設定した課題の再検討をおこない、山梨の地域や社会などの新たな課題をSDGsの視点で設定する。また、コンソーシアムと協働して課題研究を行い、海外の研修旅行先での提案活動や、各種コンテストへの参加により発信力、コミュニケーション能力を高める。

「グローバル探究Ⅲ」

3年間の集大成としてこれまで取り組んできた研究成果を、自治体や企業等に提案する。また、報告書（論文）としてまとめ、後輩へ引き継ぐ事ができるように、連携校間で共有できるようデータベース化し、閲覧・活用できるようにする。さらに課題研究から商品化、起業へと深化を図る。

①グローバル探究Ⅰ（1年次：2単位）

4月	ウエルカムキャンプ	実現可能な事例のレクチャー講座、県内大学による地域課題に対する講演 課題発見力 論理的思考力 コミュニケーション力
	自分の目標設定	自身の3年間の目標と今年度の目標を設定する 課題発見力
5月	山梨県情報政策課 政策レクチャー講演 農林水産省基調講演	山梨県の課題と実施している政策について考える 課題発見力 日本の農業が抱える問題点やその原因、解決策について考える 課題発見力
	壁新聞製作	基調講演を受け、班ごとに考えたことをまとめる 創造力 発信力
	論文レクチャー	2年生から1年生への1対1でレクチャーを実施 コミュニケーション力

6月	連携大学での講座	山梨県立大学での「山梨の政策課題」「観光の動向」「産業の動向」等の講義を受講 課題発見力 論理的思考力
7月	県内企業訪問	県内において最新技術, 伝統の継承に取り組む企業を訪問 課題発見力
8月	笛吹高校農場での農業実習	実体験を通して山梨の農業を考え実際的な課題に対する深い関心 問題解決能力 コミュニケーション力
	外国語講座	中国語でのコミュニケーション能力の育成を図る。 発信力
9月	県内企業人講話・課題決定	山梨の現状をローカルとグローバルの双方向の視点から捉える 課題発見力
	国際未来探究フォーラム	地域の人達だけではなく海外も含めた多様な人々と議論を交わす。 コミュニケーション力 創造力 発信力
10月	実地調査課題研究	コンソーシアムで専門家のアドバイスを得ながら農業から派生する様々な問題を連携高校, 地元小中学校の生徒とともに探究する 課題発見力 論理的思考力 創造力
11月	実地調査課題研究整理	課題発見力 論理的思考力 創造力
12月	プレゼンジャム	校内での発表発表会 コミュニケーション力 創造力 発信力
	県内企業訪問	県内において最新技術, 伝統の継承に取り組む企業を訪問し, 企業の実情を知る 課題発見力
12月	中間発表 準備 プレゼンテーション講座	今までの研究をまとめ, プレゼンテーション能力を養う コミュニケーション力 発信力
1月	中間発表 (校内)	コミュニケーション力 発信力
2月	成果発表会	県内外の高校やコンソーシアムを形成している官公庁, 企業または小中学校や山梨県在住の海外留学生を交えて発表し意見交換を行う。 コミュニケーション力 発信力
3月	今年度の反省 次年度への準備	振り返りシートより一年間の反省を行い, 新たな目標を設定する 課題発見力

□実施方法

対 象	1年2クラス (探究科)
実施時間	毎週金曜日の第4時限目, 5時限目

□検証評価

大学と連携してルーブリックの開発をもとに検証評価を行う。中間発表, 全体発表会を中心に研究 (探究) レポートやファイル, 学びに向かう姿勢等から, 「グローバル人材育成の5視点」について外部講師の評価を交えて行う。

②グローバル探究Ⅱ（2年次：2単位）

4月	課題研究の継続・文献調査 ICTを用いた情報収集	課題発見力 論理的思考力 創造力
5月	課題研究	論理的思考力 創造力
	論文レクチャー	2年生から1年生への1対1でレクチャーを実施 コミュニケーション力 発信力
6月	連携大学等での講座	山梨県立大学で研究に対する具体的な方法について聴講する 論理的思考力 コミュニケーション力 発信力
7月	課題研究	論理的思考力 創造力
8月	実地調査	論理的思考力 創造力
9月	実地調査・課題研究	コンソーシアムで専門家のアドバイスを得ながら自ら設定した課題に対して連携高校，地元小中学校の生徒と協働し実施する 論理的思考力 創造力 コミュニケーション力
	国際未来探究フォーラム	地域の人達だけではなく海外も含めた多様な人々と議論を交わす。国際的なコミュニケーション能力・創造力を強化する コミュニケーション力 創造力 発信力
10月	県内企業訪問	県内において最新技術，伝統の継承に取り組む企業を訪問し，企業の実情を知る 課題発見力
11月	中間発表 準備	コミュニケーション力 発信力
12月	中間発表会	コミュニケーション力 発信力
1月	成果発表会 準備	コミュニケーション力 発信力
2月	成果発表会	県内外の高校やコンソーシアムを形成している官公庁，企業または小中学校や山梨県在住の海外留学生を交えて発表し意見交換を行う。 コミュニケーション力 発信力
3月	今年度の反省 次年度への準備	振り返りシートより一年間の反省を行い，来年度の目標を設定する 課題発見力

□実施方法

対 象	2年2クラス（探究科）
研究予定時	毎週金曜日の第4時限目，5時限目

□検証評価

大学と連携してルーブリックの開発をもとに検証評価を行う。中間発表，全体発表会を中心に研究（探究）レポートやファイル，学びに向かう姿勢等から，「グローバル人材育成の5視点」について外部講師の評価も交えて行う。

③グローバル探究Ⅲ（3年次：1単位）

4月	課題研究の深化， 研究報告書の作成	論理的思考力 創造力 発信力
5月	課題研究報告書の作成， 提案活動の準備	論理的思考力 創造力 発信力
6月	提案活動の準備， 提案活動	論理的思考力 発信力
7月	提案活動，各種コンクール	コンソーシアムの内外で提案または論文を 発表する 発信力
8月～12月	課題の引継ぎ，データ化	後輩達に引き継がれるよう，論文を作成する とともに課題研究をデータベース化する 発信力
2月	成果発表会	(進路決定者対象) 県内外の高校やコンソーシアムを形成して いる官公庁，企業または小中学校や山梨県在 住の海外留学生を交えて発表し意見交換を 行う。 コミュニケーション力 発信力

□実施方法

対 象	3年2クラス（探究科）
研究予定時	毎週金曜日の第5時限目

□検証評価

大学と連携してルーブリックの開発をもとに検証評価を行う。中間発表，全体発表会を中心に研究（探究）レポートやファイル，学びに向かう姿勢等から，「グローバル人材育成の5視点」について外部講師の評価も交えて行う。

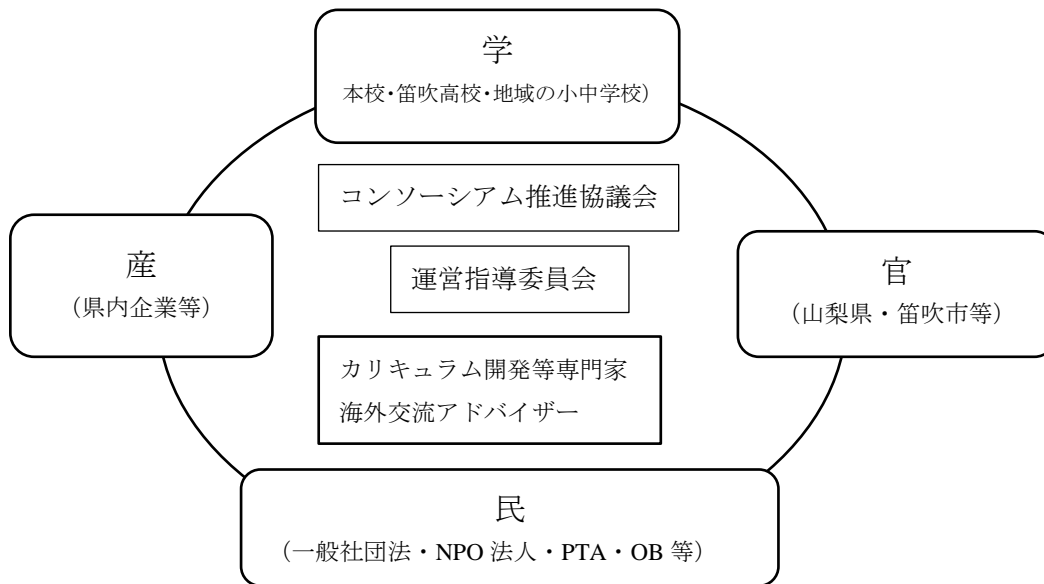
④国際的なコミュニケーション力の向上

全学年を通して地域活性化の為に必要な資質である異文化理解を一層深め，また長期休暇を利用して笛吹高校の生徒とともに外国語（中国語）を身に付ける。笛吹高校は山梨県特産品のシャインマスカット販売に台湾へ行く予定である。

国際未来探究フォーラムの開催や海外研修旅行（フィリピン）やオーストラリア研修，イングリッシュキャンプでの英語の探究成果発表や，国際競争力スキルアップ講座・プレゼンジャムなどにより，英語による実践的なコミュニケーション能力を身に付ける。また，留学生の受け入れ，常時校内に外国籍生徒がいる環境をつくり国際色豊かな雰囲気をつくる。

⑤コンソーシアム協働プログラムの開発

コンソーシアム推進協議会を中心にワークショップを行い，課題の抽出や問題解決にあたる。そしてスムーズな連携，探究成果としての提案活動，提案への助言，提案の採用などコンソーシアム内での関係の構築を図る。

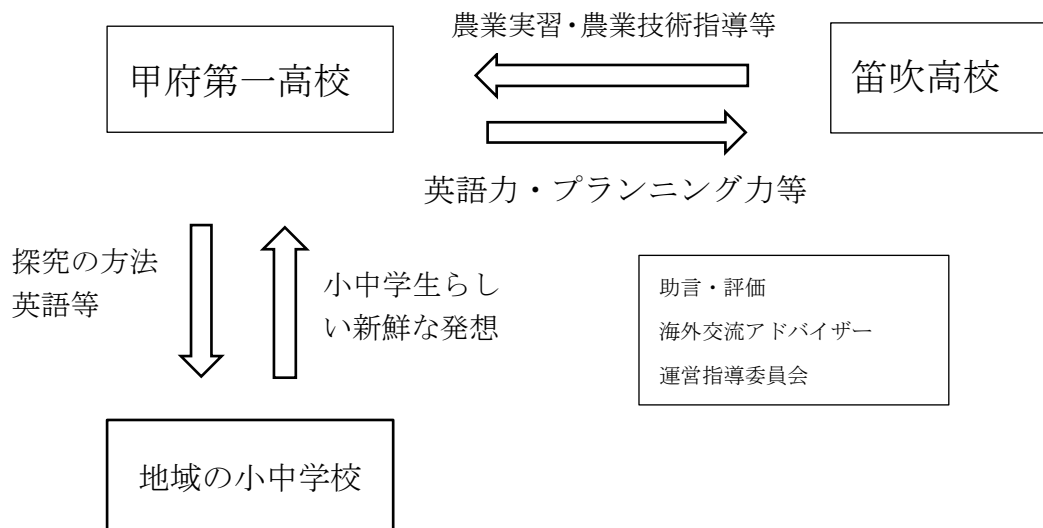


⑥学校間協働プログラムの開発

各々の特色を活かした学校間連携の構築モデルの作成

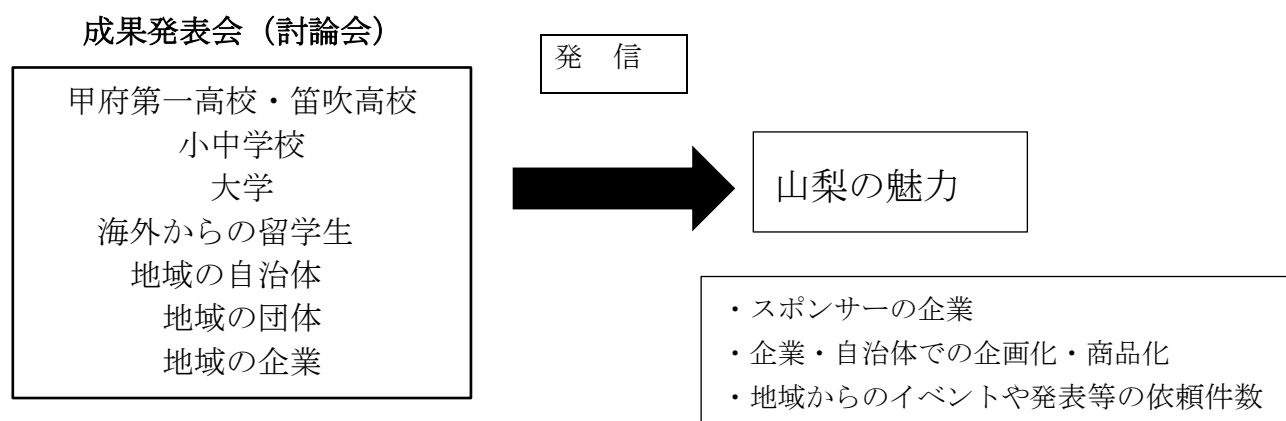
笛吹高校から農業技術等の支援や、笛吹高校が連携している企業や営農家の協力を得て、農業実習や調査・研究を行う。また、本校では、中国語講座を開催し、笛吹高校が台湾へのシャインマスカット販売の語学力強化を図る。また、調査・研究から甲府一高が考えたプランを笛吹高校に提案し、今後の農業を共に考えるきっかけとする。

また、小中学校に出向き、ポスターセッションを行う、そこで得られた意見・質問を今後の研究に反映させる。担当者会議を経て、授業時間の調整や相互での授業実践などの研究をする。連携の例：海外での山梨県産果実の販売 笛吹高校で野菜を生産、出荷し現地で販売、甲府第一高校では現地の経済・政治情勢の調査提供、外国語パンフレットの作成を行う。



⑦成果発表会

成果発表会ではコンソーシアム内の高校や地域の小中学校だけの発表に限定せず、多くの学校や自治体、企業に参加を募り、山梨県全体で高校生を中心に若い人材の地域活性化に対する議論の場となるように実施する。そこからスポンサー、企業・自治体での企画化、イベントや発表等の依頼を受ける機会にする。



⑧探究の手引き書「グローバルパスポート」（生徒必携）の開発・改良

SGHで使用した手引き書を参考にして、探究活動を効果的に進めるための手引き書を甲府第一高校、笛吹高校で作成する。更に教師の指導力向上の為に、県内高校への普及を図る。

(2) (1)の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラム開発等専門家のサポートにより、地域の課題・地域の政策等についての動向を把握する。校内推進委員会を中心に、グローバル人材の育成を実現する方策を練り、教職員で共有し、実践する。コンソーシアム推進協議会で評価し、改善を図る体制を整備する。

(3) 地域の現状や課題等への関心、地域社会への貢献の意義や実感を芽生えさせるための工夫

1年次に山梨の地場産業である「農業」について農業実習を取り入れ学習する。「農業」の多面性を理解し、観光産業・ワイン産業・果樹産業・伝統工芸等（6次産業）へと発展させ、「農業を学んだことによって何ができるのか」他分野との融合や応用を検討する。また県内外への企業訪問や県内企業人講話などから地域社会への貢献の意義や実感を芽生えさせる。また、農産物輸出など海外での活動の必要性や外国人観光客の増加などインバウンド訪問率や訪問数・宿泊者数は全国的に見ても非常に高くなっていることを踏まえ、英語ばかりではなく中国語などの講座を開催する。

(4) 教育課程の特例の活用の有無（該当がある場合のみ）

(ア) 必要となる教育課程の特例とその適用範囲

1年次の「総合的な探究の時間（各1単位）」を代替としているが、「総合的な探究の時間」が目標とする『探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す』ことは、自ら探究課題を設定し、グループワークを通じて探究活動を行う「グローバル探究」の目的と合致する。また、1年次に「社会と情報」（1単位分）を代替としているが、「社会と情報」が目標とする『情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる』ことは、生徒がグローバルな課題の中から自らが解決すべき課題を適切に探し出し、インターネットやICTを駆使し情報を収集し、それを処理してプレゼンテーションを行う「グローバル探究Ⅰ」の内容と合致する。

(イ) 教育課程の特例に該当しない教育課程の変更

「グローバル探究Ⅱ」、「グローバル探究Ⅲ」については、「総合的な探究の時間」として行うが、学科設定科目「グローバル探究Ⅰ」の継続という意味合いから、そのように呼称することとする。

(5) (1) の取組効果を高めるための教育課程外の取組

- ・如月会の開催
茶道・書道・箏曲三部の合同発表会。地元の自治会を招待し交流会を開催することにより、日頃の活動成果を地域に還元する。英語版のリーフレットやポスターを作成する。また、生徒が自ら企画・立案・広報を行うことを通じた主体性や豊かな心を持ち伝統や文化を尊重する精神を涵養する。
- ・ホームページの活用
学校ホームページに専用ページを開設し、英語でも情報を発信する。専用ページの更新や英語専用ページの作成は原則として生徒が行う。また、生徒が企業等との打合せなどインターネットを介した形で行えるようにする。
- ・英字の学校新聞の発行
年2回、学校の話題や探究活動の様子等を、英語で作成し英語力の向上を図る。
- ・日新基金の利用
「日新基金」と呼ばれる同窓会による生徒の創造的なプロジェクトを支援する基金がある。毎年複数のプロジェクト候補から優秀な案を採択するものである。今までにこの基金を利用して、同窓生が勤務するIMFや世界銀行への訪問、熊本での震災ボランティアへの生徒派遣、台湾へのシャインマスカット販売を笛吹高校とともに実施、アカペラ部によるロサンゼルスでの発表会および現地高校生や領事館員との交流などを行ってきた。
同窓会からの協力のもと、研究指定校対象生徒がこのプロジェクトに積極的に参加し、国際的な活動を推進できるような取組を継続していく。

(6) 学校全体の授業改善や教員、生徒及び地域の関係機関の意識改革を促すための工夫

- ・生徒の活動について発表する機会をつくる。推進校を中心に連携高校、県内小中高校を含めた県全体の発表会にする。発表会へは県内の小中高、保護者、企業、行政関係者へ周知し、参加を募る。スーパーグローバルハイスクール指定時の県外連携校を招聘する。

(7) 生徒の自律的なキャリアデザインを促すための工夫（該当がある場合のみ）

- ・探究の手引き書「グローバルパスポート」を作成、対象生徒へ配布し、教員間の指導に偏りがなく（指導力向上）、生徒が自ら活動できるようにする。
- ・生徒全員へ名刺を持たせ実地調査等で使用し、生徒の自律を喚起する。

3 類型毎の趣旨に応じた取組内容

- ・ロータリークラブ、YFU、地方自治体からの積極的な留学生の受け入れ。
- ・海外への研修旅行（フィリピン）
- ・オーストラリア研修（ヘンリー高校との交流）
- ・地元の産業である農業について、まずは農林水産省基調講演を設定し、事前学習・事後学習を通して論理的な思考力を養う。またその成果を壁新聞にまとめる。
- ・県内で先進的な取組を実践している企業への訪問を行い、現場の課題に直接触れ、今後の研究に活かす。
- ・笛吹高校での農業実習は実体験を通して農業を考え、実際的な社会課題に対する深い関心と問題解決能力を養う。また、実体験を通して、豊かな人間性を涵養する。
- ・笛吹高校との連携によって農業技術等の支援や、笛吹高校が連携している企業や営農家の協力を得ながら、実質的、発展的な探究につなげる。これらのプランニングは国内外でも周知されているSDGsの視点に基づく探究を行う。
- ・地域の小中学校とも協働的に探究活動を行い、地域の課題や解決法など、小中学校の段階で深く理解させる。

- ・各企業人等の講話を聴講し，先端技術・伝統継承に取り組む企業の挑戦，目指す姿を知り，社会課題を探るとともにローカル・グローバル双方の視点を育てる。
- ・国際探究未来フォーラムを開催，よりよい山梨を創成するための討論会を生徒が主体となり開催し，PTA・地域の有識者の方々をシンポジストに招き，解決策を県内在住の外国人，海外留学生の参加も得て討論する。
- ・ポスターセッションにおいて，調査・探究してきた内容について，クリティカルな視点を持った継続的な質疑を通して提案内容の精度を高める。
- ・成果発表会をコンソーシアムで合同の発表会を行う。本事業の成果の周知を図るとともに地域との交流や海外からの留学生などの外国人との交流の機会を確保する。次年度以降の事業改善に資するためのものとする。

第3章 課題研究の実施報告

1年 基調講演 農林水産省講演会

2020. 6. 26

演題「農業をめぐる情勢について」

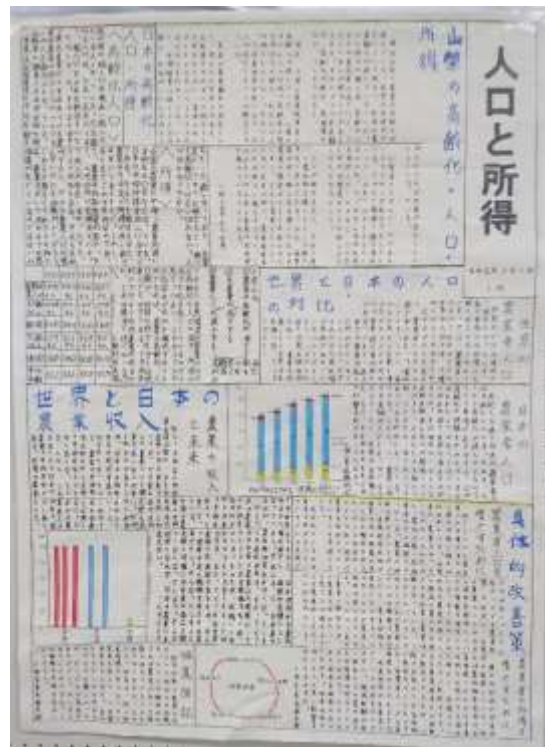
探究科では、山梨県の産業である「農業」について学び、そこから発生する課題について4人から5人の班をつくり、探究の基礎を学ぶ。



1年 農林水産省 講演会 【農業新聞発表会】

2020. 7. 3





1年 農業シンポジウム（農業実習代替行事） 2020. 8. 16

演題：「農と自分」

今年度は、新型コロナウイルスの感染予防から例年実施していた農業実習（山梨県立笛吹高校と連携）を変更し、講師を招いて、学校内で講演会を実施した。



1年 県立大学講座 演題：「山梨県の政策課題」

2020. 8. 28



1年・2年 一探未来フォーラム

2020. 9. 19

・事前に生徒主体（1・2年生合同）でテーマを作成。プレステージを含め山梨と世界の課題に向き合った。



1年 県内企業見学 密を避けるため、今年度は4つのコースに分かれて県内の企業を訪問。

- ① 金精軒 ② 印伝屋・アリア甲府。山梨伝統工芸館
- ③ ナカニシ農園、農業生産法人（株）エコモス ④ 柚ノ木発電所、JA フルーツ山梨








■ 1年生 探究活動 各班 課題探究テーマ

班	SDGs	社会課題探究テーマ
1		<p>Let's enjoy speaking English !</p> <p>私たちは本当のグローバル人材になれるのか？実用的な英語力を向上させるにはどうしたらよいか探究しています。</p>
2		<p>STOP! 授業中の睡眠学習</p> <p>一高生で、授業中に寝る人と寝ない人の違いを分析する。また、授業中に寝ないために必要な対策を多くの一高生に知ってもらうことによって、一高生の学習をサポートする。</p>
3	 	<p>桃の廃棄と桃農家の高齢化の関係</p> <p>桃は山梨県を代表する農産物である。しかし、扱いが難しいため、食べられるのに廃棄になることが多いという仮説を立てた。調べていく中で桃の廃棄が本当に課題かという疑問が生じた。そこで、桃の廃棄が本当にあるのか、また、その原因は何か探究した。</p>
4 A		<p>小水力発電の普及に向けて～水力×街灯で持続可能な暮らしを～</p> <p>発電の改革が求められる中、山梨県の河川が多いという特色を生かし、水力発電で問題解決を図ろうと考えた。持続可能なエネルギー源である水力発電を普及させる目的をもって活動している。</p>
4 B		<p>地域性×スマート農業～「新たな農業」のカタチ～</p> <p>「農業＝儲からない」のイメージ脱却のため、スマート農業の推進がされている。しかし、必ずしも農業従事者の所得が増加したわけではない。儲かる農業+「地域密着型」の「新たな農業」のカタチの模索へ。</p>
5		<p>Beyond The SEX～多様性の社会を実現しよう!～</p> <p>LGBTQ+について知ってもらう機会の増加とLGBTQ+が理解され、当事者の方々が暮らしやすい社会の醸成を目指して活動しています。</p>
6		<p>故きを訪ねて新しきを伝える～金峰山五丈岩の信仰と御嶽古道との物語～</p> <p>私たちの住む山梨県では富士山観光の一極化により他の観光地の歴史が廃れている。(山梨観光推進機構)私たちはその代表的な観光地である御嶽・峰山とその信仰に関わる御嶽古道にクローズアップして探究を始めた。</p>
7		<p>地域包括型社会の実現</p> <p>ひとり親家庭の子どもが、将来の選択肢や、様々な生活上の経験値が少ない状況に置かれているという現状を、ひとり親家庭専用の子ども食堂の活性化を通して、解決できないか探究する。</p>
9		<p>甲府の魅力を“細”発信～誰からも愛される街を目指して～</p> <p>私たちは、県庁所在地なのに甲府駅周辺の商業施設の少なさや活気の無さを感じている。そこで、魅力や活気をどのようにして生み出すことができるのか探究している。</p>
10		<p>ゲームで健康になろう ～eスポーツを楽しむことが健康な老後に繋がるのではないかな～</p> <p>山梨県は、高齢者の主観的健康度が高い、高齢者がコミュニティに属している、高齢者の就業率が高いことにより健康寿命が長い地域である。しかし、私たちが高齢者になるときの同じ状況は継続しているのだろうか。そんな問題意識を持って探究しています。</p>
11	 	<p>五感×人間 ～五感を用いた環境操作の探究～</p> <p>今年度、コロナ禍におけるストレス増加、それに伴う集中力の低下が問題の1つであった。その解決に向けて、聴覚に焦点を当てて探究した。身の回りにある音楽が私たちにどのような影響を与えているのかを調べ、最適な空間の設計を行おうと考えている。</p>
12	 	<p>ART×PLASTIC 一体験を通じて発見するプラスチックのあり方</p> <p>現在、大量のプラスチックによる海洋汚染、人間を含む生き物への被害が懸念されている。しかし、日本のプラごみの現状を認識している人は多くない。そこで私たちは、プラスチック問題について考える機会が教育があればよいと考え、探究している。</p>

■ 2年生 探究活動 各班 課題探究テーマ

班	言語	SDGs	社会課題探究テーマ
1	英		オンライン授業を普及させよう コロナウイルスが猛威を振るう中、多くの教育機関がオンライン授業の導入を試みたが、本格的な導入には課題が山積みしている状態である。様々なモノがオンライン化していく将来、現在の課題を分析し、探究することで教育におけるオンライン化の可能性を見出すことができるのではないかと思う。そしてそれがオンライン授業の普及に繋がり、教育の平等性や新たな授業形態の模索することにも関わってくると考える。
2	英		コロナに勝つ 私たちは現在世界に蔓延しているコロナウイルスについて研究してきた。今、誰が感染してもおかしくない世の中で高校生の私たちが学校生活を送るためには感染予防が不可欠だ。高校生の私たちにできる感染予防や感染した場合におこる影響について多くの高校生に知ってもらい、コロナ禍に応じた青春を送ることを目指す。
3	英		人を集める ～人を集めるプロセスとその探究～ 私たちは人を集める方法を探究しています。コロナウイルスにより活動が制限されている中、現在はオンライン通信を活用したイベントを開き、その参加者の効果的な集め方を模索中です。これを通して今の状況に合わせた人を集める方法を探究し、店やイベントの集客に活用できるようなプロセスを確立していきたい。
4	英		Short Drill ～災害時に試される私たちの力～ 私たちは防災をテーマに探究活動を行っています。地方自治体へのインタビューから、私たちは特に日々の防災教育に注目しました。そして調査を重ねた中で浮かび上がったのが、埼玉県の防災教育の充実度の高さでした。私たちはそこで行われる「ショート訓練」という緊急地震速報を利用した訓練に注目し、山梨での普及を目指して調査・署名運動などの活動を展開しています。
5	英		Kindness for LGBT 私達はLGBTに関する探究を通して、全ての人にとって“本当に暮らしやすい社会”とは何かを考えてきました。今回は、私達なりに辿り着いた答えをもとに、提案をしていきます。
7	英		なぜプラスチックごみは増えるのか？ 「海が汚れている」と聞いても山梨県に住むみなさんは身近に感じることができないかもしれません。しかし、海ごみの8割は川や海から流れたものであり、大半は家庭ごみの流出が原因です。そこで海ごみの過半数を占めるプラスチックに焦点をあて、解決方法を探っています。
8	英		節電の可能性 私達G探8班は、これまでに地球温暖化の進行を抑制するために探究活動を行ってきた。昨年度は再生可能エネルギーに着眼をおいたが、様々な理由から今年度からは節電の探究活動を行うようになった。コロナの影響でいつもより短い期間での活動だったが、班員で一致団結し、家庭での節電があたり前になるように節電の大切さを発信してきた。
9	英		Digital Detox in 山梨 コロナウイルスの影響で、私たちは様々な活動が制限され、喜びや達成感を仲間と共有することでさえ難しくなりました。また、屋内で過ごす時間が増え、新たな健康問題が発生しました。その具体例がスマホの使い過ぎによるドライアイや、ゲーム障害などです。私たちはこれらを解決すべく「デジタルデトックス」に着目しました。
10	英		Can you SPEAK English? 国際社会への積極的な参画が乏しい日本の背景には英語という言語の壁があると考え、それを改善するため、英語の楽しさを広げるといった目標のもと、探究活動を行っています。具体的にはアンケートや実地調査、また情勢に合わせてオンラインでのイベントなどの活動を行っています。小学校高学年を対象にしたイベントを試験的にを行い、英語を話す機会を増やすことに貢献したいと考えています。
11	英		小水力発電 今日、私達は電気を使って生活を営んでいる。その電気の多くは火を使い生み出しているが、この方法では地球環境に悪影響を及ぼしかねない。そこで私達は新しい電気を生み出す方法として「小水力発電」について探究をした。この発電方法では地球環境に優しく、持続した発電が可能だ。しかし課題も多い。私達はその課題に焦点を当て、改善するために探究を進めてきた。
12	英		TANADA ～甲斐市の棚田資源を活用した＜結の文化＞の復興、並びに地域活性化に向けた探究～ 私たちは、甲斐市御領棚田を活かし、地域コミュニティである結の文化の復興と地域活性化を目指して探究を行っています。御領棚田の魅力を発信するイベントを行い、地域間の交流の増加も狙っています。
13	英		知る・行く・繋げる昇仙峡 現状、日本には数多くの知られていない観光地があります。日本一の渓谷美を誇る昇仙峡もその一つです。そこで昇仙峡が大好きな私たち、昇仙峡もりあげ隊はこの場所でイベントを開き、訪れるきっかけにしてみようと考えました。美しい自然に囲まれた遊歩道を歩きながら非日常的な空間を味わってみませんか？
14	英		森への興味 普段から身の回りの植物に興味を持ち、積極的に自然に関わろうとしている人はどのくらいいるだろうか。一高生にアンケートを取ったところ、一高には多くの木があるにもかかわらず、ほとんどの人がその木について知らないということが分かった。そこで私たちは、一高を中心に自然への意識を高め森林荒廃問題解決のための糸口を作ること目標に活動している。
15	英		竹島問題の解決を目指して 音楽、食文化、経済と世界で影響力を強めている韓国とよりよい関係を築くことは日本の目下の課題です。しかし韓国人の対日意識は根強く、関係改善の兆しは見えません。その原因として多く取り上げられるのが竹島問題です。中立的な目線から、両国の意識や島の歴史の変遷について探究し、問題解決の糸口を探ります。

■ 3年生 探究活動 各班 課題研究テーマ

班	言語	SDGs	社会課題探究テーマ * 発展探究と付した発表→新規、もしくは進路やキャリアに照らした内容に発展させて発表します。
2	日	11 住み続けられるまちづくりを 	甲府市フォトゲイニング ～フォトゲイニングによる地域に対する意識の変化～ 平成29年度甲府市市民実感度調査によると、「今後も甲府市にずっと住み続けたい」と考える人の割合は47.7%であり、半数を下回った。この結果を踏まえ、フォトゲイニングが市民の甲府市への愛着形成に有効であると考え、探究を進めた。
3	日	3 すべての人に健康と福祉を 	災害とPTSD ～アートセラピーの研究～ 月日の流れははやいもので、東日本大震災から10年が経過した。しかし、いまだに心の傷が癒えない方々が多い。また、山梨県においても今後いつ震災が発生してもおかしくない状況である。災害の二次被害としてのPTSDに対するアートセラピー療法に着目した。
4	日	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	振動は発電の時代へ 日本のエネルギーは火力発電に依存しているため、多くの再生可能エネルギーが注目されている。しかし、その多くには設置場所が限定されてしまうというデメリットがある。そこで、どこでも発電することのできる「振動発電」に注目し、その可能性について探究した。
6	日	8 働きがいも経済成長も 	効果的な広告 山梨県に来る観光客の多くが富士山周辺に集中しているのは、山梨県以外の地域の魅力が効果的に伝わっていないからであると考え、広告を改善する必要があると感じた。そこで、効果的な広告について探究し、それを様々な場面で役立てようと考えた。
7	日	11 住み続けられるまちづくりを 	海なし県に海をつくろう！！ ～湖水浴で町おこし～ 本栖湖は自然豊かで水質もとてもきれいだが、観光客数は少なく、魅力が知られていない。そこで、本栖湖を泳げる場所にしたり、パンフレットや紹介ARを作成したりすることによって認知度を高めれば、より多くの人に訪れてもらえるようになるのではないかと考えた。



Children×Elderly×Vacant house



~ A new community starting from an vacant house ~

Kofu First High School 2nd grade 6 group • Hiro Iwama • Tetsushi Wakao • Konon Mochizuki
• Kaho Yamamoto • Mitsuki Iwama

Top issue SDGs11 • Sustainable cities and communities.
Middle issue • The number of nuclear families and vacant houses is increasing in Japan.
Lower issue • Lack of interaction with local residents.

Purpose : There are a lot of vacant houses in Japan. We renovate a vacant house in Yamanashi and reuse it as a place for local people. Also, we want to find out possibility of new vacant house.

Background : The number of nuclear families is increasing not only in Yamanashi prefecture but also Japan as a whole and Yamanashi has the highest vacant house rate.

(chart1)



Figure1 :Household composition in Yamanashi.

Elderly single-person household → 11.3%
Elderly couple household → 12.4%
11.3% plus 12.4% are 23.7%. A quarter of people living in Yamanashi live only elderly of.

(table1)

都道府県	単身世帯	夫婦世帯	世帯数	単身世帯	夫婦世帯	世帯数
山梨県	21.3%	14.8%	5,574	12.8%	12.2%	0.1%
東京都	20.3%	14.5%	5,874	12.7%	9.9%	2.6%
東京都	19.5%	15.3%	4,374	12.6%	12.3%	-1.1%
埼玉県	18.9%	11.8%	5,874	12.0%	7.4%	-4.6%
東京都	18.7%	15.3%	5,874	11.9%	11.3%	0.6%
東京都	18.9%	11.4%	7,574	11.2%	12.2%	1.0%
東京都	18.1%	11.5%	6,874	10.7%	10.2%	0.5%
東京都	18.0%	12.2%	5,774	10.6%	11.5%	-0.9%
東京都	17.6%	11.3%	5,874	10.2%	11.3%	1.1%
東京都	17.4%	12.2%	5,174	10.2%	9.9%	0.3%

Figure2: The rate of vacant house.

• **Yamanashi 1998 14.8%**
• **2009 21.3%**
• **Rate of increase 6.5%**

(Graph1)

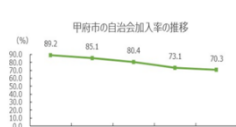


Figure3: The local government participation rate and transition:

• **2000 89.2%** • **2019 70.3%**

Reasons for not participating :

- Community exchange is decreasing due to the spread of social media.
- It is difficult to hold an event with fewer children.

(Graph2)

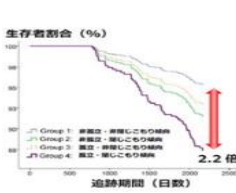


Figure4:6 years survival rate for people who are a society isolated and withdrawn:

- not isolated, not withdrawn 95%
- not isolated, withdrawn 93%
- isolated, not withdrawn 91%
- isolated, withdrawn 88%

We have found that Interaction with people is greatly related to health

Place of rest



Existing examples of ways to use vacant houses in Japan:

- 〈Yamagata prefecture〉 Accommodation experience in a vacant house.
- 〈Toyama prefecture〉 Make a map of the vacant house.
- 〈Other〉 Utilize the vacant house bank and make it an artist's atelier.

Create a new community where local children interact with the elderly.



STEP1

Take part in volunteer work which support children's learning.

STEP2

Take part in volunteer work which renovate a vacant house.

STEP3

To do a survey for elderly people

STEP4

To hold an event to use a vacant house in Yamanashi

The Merit of Using Vacant Houses

- We can cut costs

Yamanashi has a system which assists people using vacant houses. So we can use this system and decrease costs

- It can get interest of young people

These day old clothes and old houses are gaining popularity among young people if we use vacant houses , we may be able to gather attention from young people.

- It can solve other problems

We can turn vacant houses into needed community centers or the Chamber of Commerce that are closer to elderly citizens. currently elderly's people can't go there because they live in far from it.

However Yamanashi has a lot of vacant houses , so the elderly can go to these events more easily.

The demerit of using vacant house

- vulnerable to disasters

Many vacant houses was built a long time ago. Then, it is getting too old to use. This makes it impossible to withstand the Shaking when an earthquake strikes. And then it is dangerous for children and elderly people to use it.

- the solution

We will hold an invent in vacant houses with earthquake resistance .

The current inquiry activity situation

- request for cooperation to “machizukuri kofu”

We are advancing the plan about to make a new community with “machidukuri kofu”

Machizukuri kofu is a company to plan the revitalization of a kofu city

Future Outlook

3 To do a survey for elderly people

We worked as volunteer at working with children and repairing a vacant house. Therefore we were able to learn about vacant house and children.

Next we will gather the elderly's opinion and we will use this information to make our plan.

4 To hold an event to use a vacant house

Now we are planning to hold an event with “machizukuri kofu”. We want to find vacant house to use by referring to the Questionnaires for the elderly and advice of “machizukuri kofu”.

Also, we would like to discuss specific matters such as the date and time of the event with the people “machizukuri kofu”.

We will be careful not to get infected with coronavirus.

references

• <https://www.yafo.or.jp/2019/07/31/11418/>

• <https://www.soumu.go.jp>

• <https://kaitai-tatujin.com/akiya/kaigai-akiyajajyou>

2020 探究活動発表会 「山梨ブランドサミット」 2021. 3. 20

今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、保護者等外部からの参加者を制限し、リモートで全大会を実施しました。来年度本校入学予定の中学3年生も参加し、積極的な質疑応答が行われました。



【開会式：学校長挨拶】

各学年の発表概要（主旨）

1年 発表15分以内（質疑反駁10分程度）

1年生は探究活動の考え方や基礎基本を学ぶため、前半は農業をテーマに全員で取り組みました。本県の現状を踏まえ、農業の抱える課題を様々な角度から分析・調査することで論理的な思考力・実践的なコミュニケーション能力の育成を目指します。13班に分かれ、農業から派生した任意の課題を設定し、解決のためのプランを構想しました。

2年 発表15分以内（質疑反駁10分程度、英語での発表）

2年生は15班に分かれ主体的に社会課題を設定し、解決のためのプランと並行させながら探究を続けてきました。「課題は現場にある」とよくいわれますが、実地調査（企業訪問やインタビュー活動）を経ながら内容をブラッシュアップしました。また、イングリッシュプレゼンテーションセミナーや DOOR グローカルプログラムを通じて国際的な視点の滋養も目指しました。

3年 発表15分以内（質疑反駁10分程度）

3年生は、今までの探究成果をポスターと論文にまとめました。本来であれば夏休み前までに探究成果を企業や行政、大学等に提案するのですが、本年度はコロナ過において、多くの班が実施を見送る形となりました。なお、今回のブランドサミットでは、既に進路が決定している生徒9名、7グループの発表を行いました。



【各学年発表】



【全大会発表】

「山梨ブランドサミット」終了後の外部参加者に行ったアンケート集計

コンソーシアム推進協議委員・運営委員・企業関係者・行政関係者 12名

1. 全大会代表班の発表について

- ・大変よかった。 11 ・どちらかといえば良かった。 1
- ・どちらかといえば良くなかった。 0 ・良くなかった。 0

2. 代表班の発表について

- ・しっかりとした目的意識があり、プレゼンの内容もよく吟味され整然と組み立てられていて素晴らしい。
- ・発表態度・姿勢も立派で、表現も自分のものにしてあったことも立派であった。今後の益々の活躍が楽しみです。
- ・発表の内容も良かったが、その後も素晴らしいと思いました。
- ・司会の生徒が臨機応変に英語で進行していた点も素晴らしい。
- ・英語でのやり取りが面白かった。
- ・貧困のプレゼンはもっと探究を深める必要があると思う。
- ・データをもとにわかりやすい発表でした。
- ・各班それぞれ目的意識をもって活動しており、大変意義ある発表でした。
- ・各発表共、課題、課題とした理由、解決案がとても理解しやすいプレゼンテーションであった。
- ・それぞれの提案をどのように実現に向けて動くのか気になりました。
- ・「今の高校生はこんなにすごいのか！！」素直な感想です。多くの気づきをいただきありがとうございました。
- ・それぞれが持った疑問を次々とぶつけ合う様が、現世代の高校生として、大事な経験値になっていることと思う。
- ・3年間のプロジェクトで学生の成長はもとより、地域の産業界との連携が具現化し、何らかの形に残ることを願う。
- ・英語を用いての発表、海外での経験等素晴らしかったです。
- ・卒業生の探究を引き続き、究極しており、深化を感じました。

3. 全体を通しての意見・感想

- ・発表に対して厳しい質問が飛び交うのは素晴らしい
- ・空き家対策をどう深めて金儲けをするのかの方向に行かず、地域の質を高めようとしているところが素晴らしい。
- ・構成力のある充実した発表会で質疑応答も核心をついていて、より深まったと思います。

- ・日々の先生方の指導力にも敬意を表します。
- ・進行もスムーズ及び素早いと思いました。
- ・大変勉強になった。これからも探究を続けて世界を変えてください。
- ・発表後の質問も多々あり、それに対する回答もわかりやすく、又返答に難しい場合は、はっきりわからないことを認めること等とても楽しく見学ができました。
- ・課題を行政や企業から募集するのも面白いのではないかと思う。
- ・中小企業においてSDG s の理解は浅い状態です。昨年あたりから世の中でSDG s への関心は高まりつつありますが、SDG s そのものの理解にとどまっている状況です。今後、民間企業の経営層の参加をもっと促してみたいかと思いますが。
- ・学生の皆さんの力強い説明に大変関心しました。
- ・私ども農政部としましても、海外に向けた本県農産物の魅力の発信、イニシアチブをはじめとする環境に配慮した取り組みの推進など連携、ご支援できそうなものもあろうと思います。学びの歩みを着実に進めてください。
- ・来年度も期待しています。
- ・中学生にとって憧れの存在でありますので、引き続き参加させていただきたいと思いません。

探究科入学許可予定者 34名

1. 全大会代表班の発表について

- ・大変よかった 33 ・どちらかと言えば良かった 0
- ・どちらかと言えば良くなかった 0 ・良くなかった 0
- ・未記入 1

2. 代表班の発表について

- ・現在起きていることや問題視されている事について調べ、その後の解決策を班ごとに導きだしていたところが大変すばらしかった。質問や疑問にひとつひとつ真剣に向かい合い、根拠をもとに答えていたところが印象的でした。私も入学後には先輩方のような発表ができるようになりたいと思い、探究活動ができる日が待ちきれません。(多数意見)
- ・発表するときの話し方にも工夫がされていて良かった。このように聞く人が興味を持ちやすいものにも発表の上で大切だと改めて思った。実際に検証する時も、細かくしっかり検証していてわかりやすく、理解しやすかった。(多数意見)
- ・どの班の発表も明確な目標を設定し、達成のためにアイデアを出すだけでなく、実際に行動を起こしてそこから先に学びを深めているのが印象的だった。
- ・入学したら上手にプレゼンできるようになりたい。

3. 全体を通して、意見・感想

・発表側だけでなく、聴き手の先輩方が質問をされていて一高生が一体となって創り上げている姿が印象的だった。最初から最後まで全体的に緊張感があり、空気を自分たちでつくっていた先輩達の姿を見ることができて参加してよかった。(多数意見)

・英語で司会進行をされていて、英語学習としてとても良いと思った。意見を積極的に述べていて凄いと思った。先輩方が英語をスラスラと活用している様子はとても魅力的だった。入学前に探究科の様子を具体的に知ることができる良い機会になった。自分自身のこれからの探究活動のビジョンをもてる。(多数意見)

・英語での司会進行であったが、わかりやすい英語を使っているところが多く、理解できて勉強になった。また1年後、2年後、3年後の目標となる姿を見ることができ、とても良かった。

・探究内容の着眼点が面白い。発表者・質問者がハッキリとしゃべっていたので、大変わかりやすかった。これから先の自分の探究活動や生活に活かしていきたい。

・目指すべき姿を見ることができ、とても良かった。このような活動を通して成長していきたい。

・入学後の勉強についていけるか心配ですが、今回のようなことを学べると思うと入学がとても楽しみです。(多数意見)



「山梨ブランドサミット」当日



「探究科」についての説明



「探究科の年間行事」の様子

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



探究科の社会課題設定

▶1 上位課題 SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS)

世界の貧困削減や保健衛生、教育普及など、国連は2015年までの達成目標(ミレニアム開発目標・MDGs)を掲げていましたが、度重なる世界の変化、例えば財政危機や自然災害など新たな課題が山積しました。そこで、2015年以降に新たな目標を打ち立てる必要に迫られました。それが「持続

可能な開発目標(SDGs)」です。2012年の国連会議「リオ+20」において合意され、現在17の目標が打ち立てられています。先進国にも相応の役割が求められているのです。DOORプログラムで掲げる上位課題は以下に示す17のコンテンツから選ぶようにします。

▶2 下位課題(中位課題)

上位課題に関連させ、もっと私たちの生活に隣接する課題、それを下位(中位)課題に設定します。例えば、本県の人口減の問題や、農業でいえば若者の就農問題といった克服すべき課題をさします。そしてプランニングでは下位(中位)課題の解決をめざし、さらには上位課題の克服(関与・影響)を目標にしていきます。そのようなスタンスを設定することで、グローバルビジョンを養っていきます。

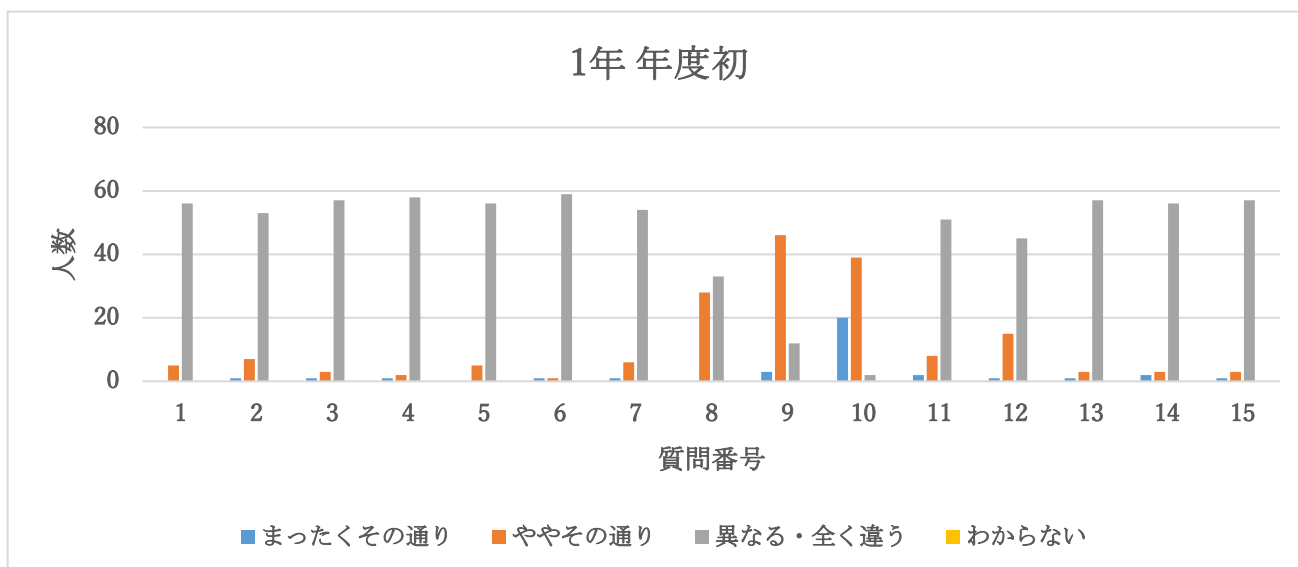
第4章 実施の効果とその評価

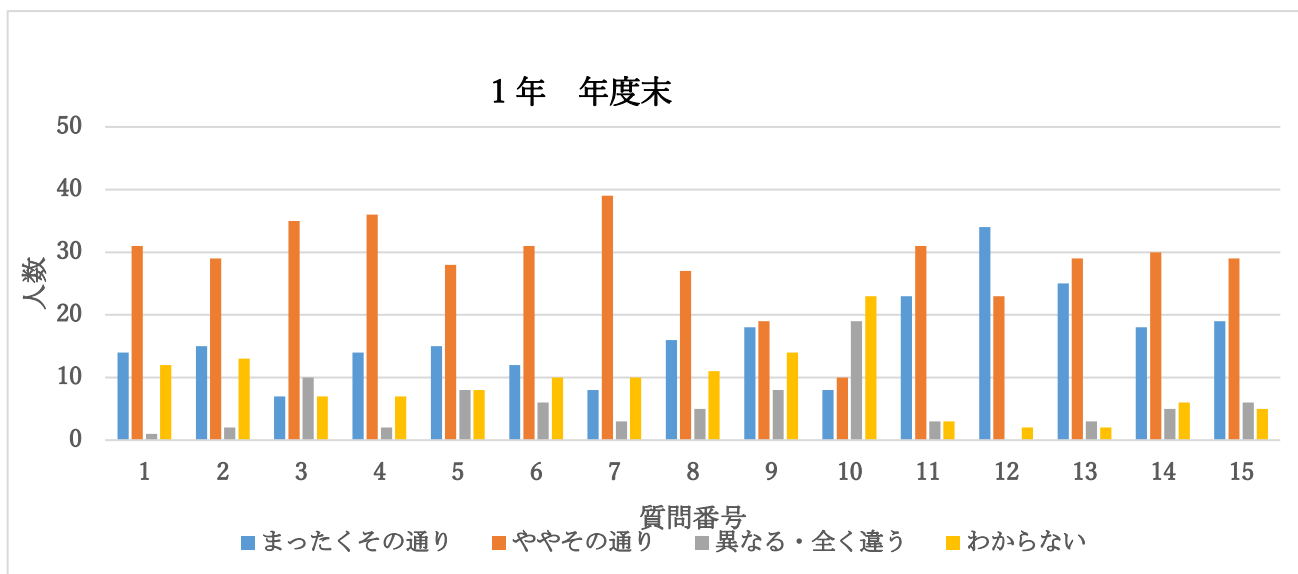
1・年度初・年度末アンケートの結果について

年度のはじめと終わりに以下の質問（25問）について1年から3年までの探究科の生徒にアンケートを実施した。今年度は、新型コロナウイルスの影響で探究科の活動は夏休み以降に始まり、活動に対して不安を抱えたまま入学した1年生に対して、3年生リーダーがGoogle class roomのYouTubeビデオから探究活動について3年生自身の3年間の探究活動の内容・活動等について説明をし、1年生の不安を少しでも和らげる工夫などを行った。

【本校の目標達成を確認する項目】

1. 3年間の取組を通して理解して論理的な思考力・判断力が高まった。（論理的思考力）
2. 様々な文化の違いについて理解し、考える力が身についた。（批判的思考力）
3. 部分的な事柄を1つに組み合わせて最善の方策が行える柔軟性が身についた。（創造力）
4. 考えたことを実行に移す行動力が身についた。（行動力・発信力）
5. 討論（グループディスカッション・サミット等）の場で正しく理解して討論できる力が身についた。（コミュニケーション力）
6. 理解したことが適切に言葉で表現できる。（コミュニケーション力）
7. 主体的に課題を構想し、解決する力が身についた。（コミュニケーション力）
8. グローカルリーダーとしての自覚が高まった。今後も様々な方面で活躍したい。（資質）
9. 1年間（又は2年間、3年間）の活動で地元山梨について興味・関心が高まった。
10. 大学は県外へ進学するが、就職は山梨県を考えている。または将来的には山梨に戻りたい。（事業の目標）
11. 周囲の仲間もしくは地域と協力・連携し、物事を進めていく力が身についた。（協働力）
12. 未知の事柄への興味・関心がある。（興味・関心）
13. 自分から取り組む姿勢が身についた。（主体性・挑戦心）
14. 途中であきらめず。粘り強く物事に取り組む姿勢が身についた。（自主性・挑戦心）
15. 成果を発表し伝える力が身についた。（プレゼンテーション力）

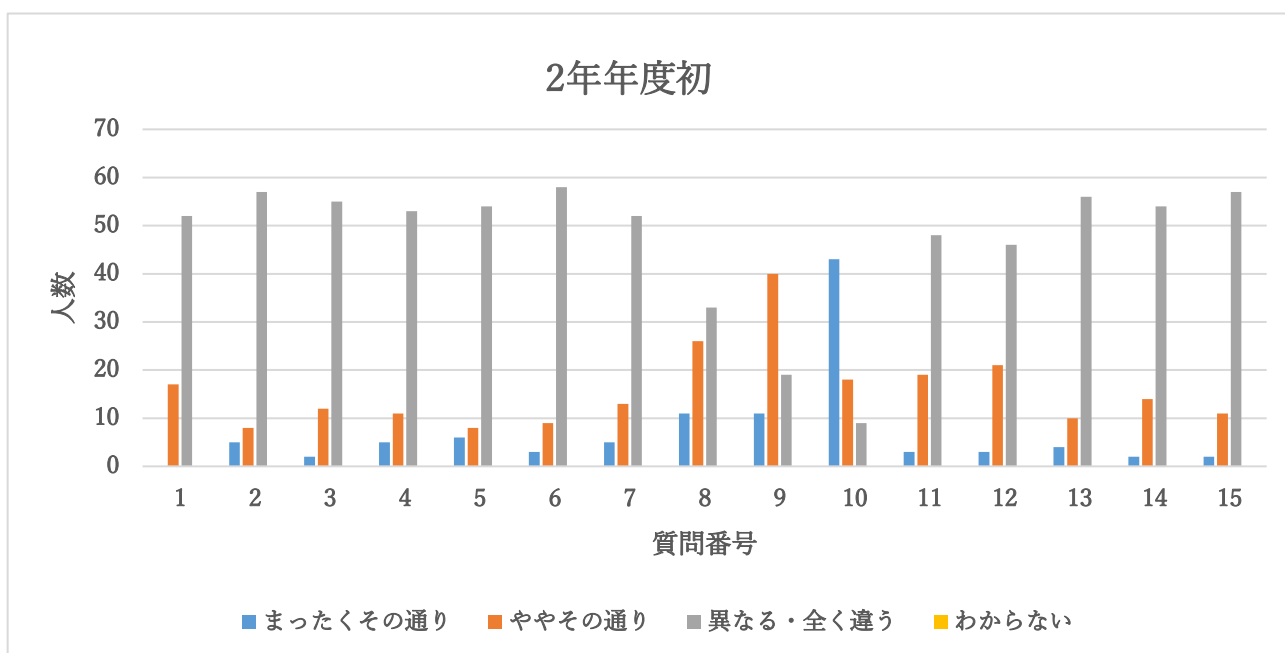


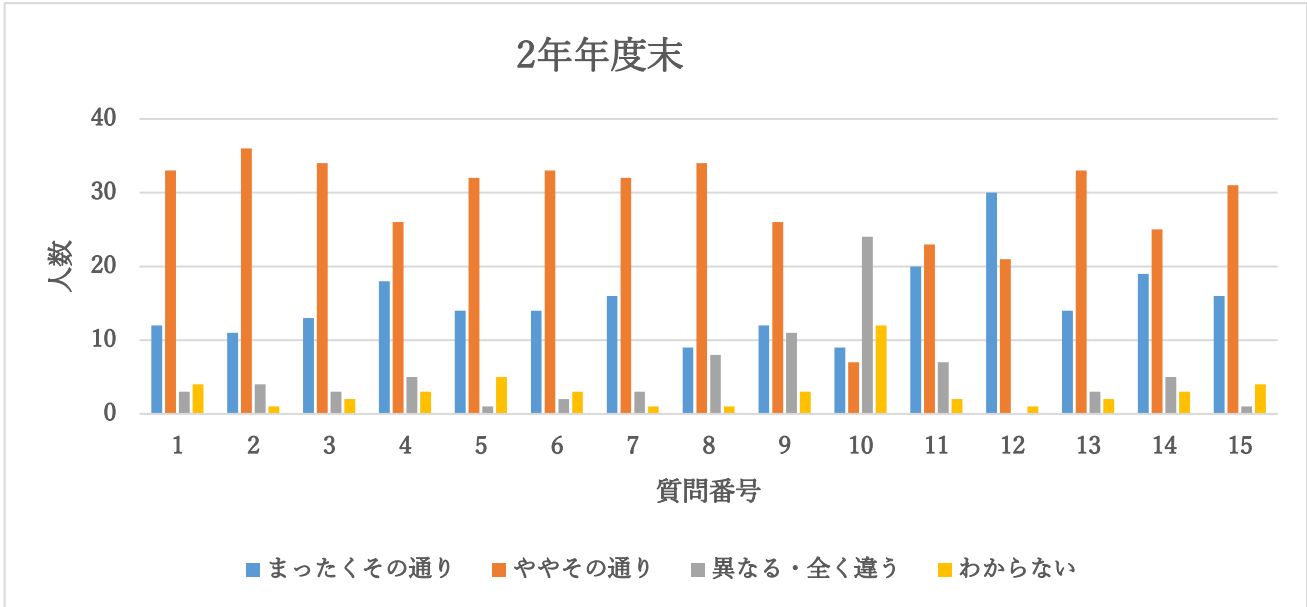


1年生について

・グローバルリーダーとして地元山梨について興味・関心をもって探究科に入学した生徒が80%以上いる。1年間の取組を通して、論理的思考力(75%↑) 批判的思考力(70%↑) 創造力(68%↑) 行動力・発信力(80%↑) コミュニケーション力(75%↑) 協働力(90%↑) 興味・関心(55%↑) この項目は強く肯定的な感想を持つ生徒が非常に多くなっている。自主性・挑戦心(90%↑) プレゼンテーション力(80%↑)

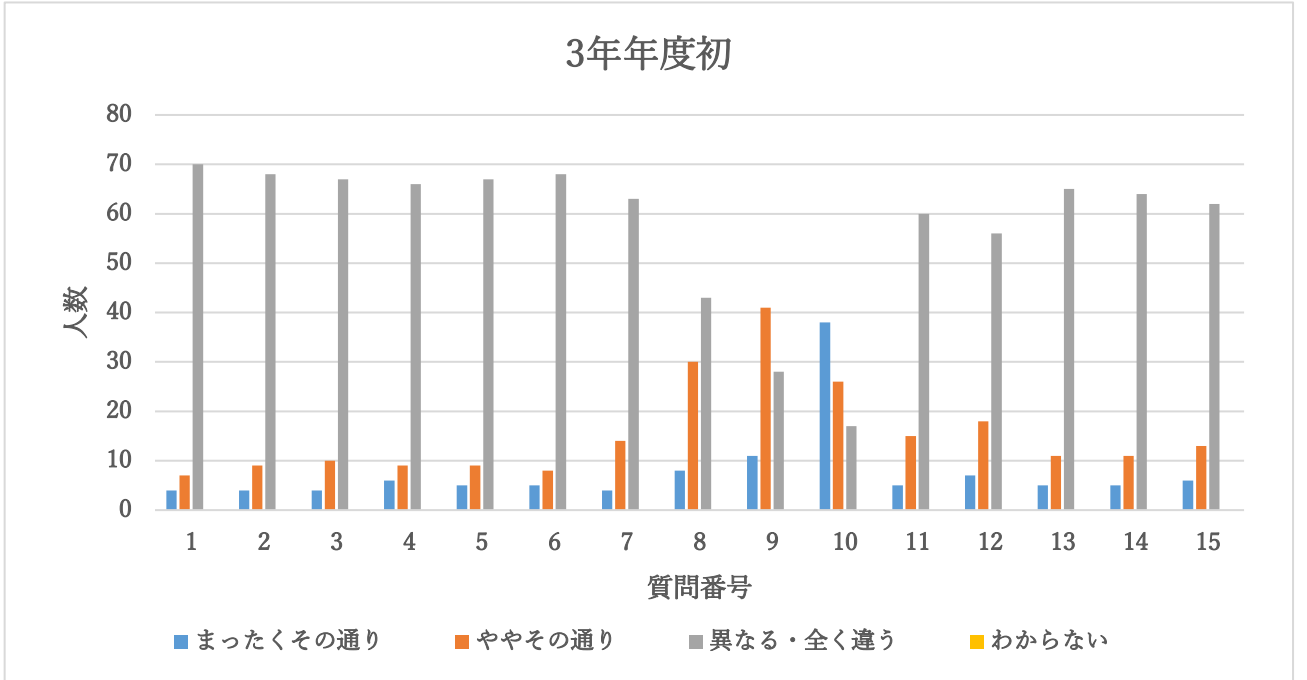
・本校の目標達成を確認する項目すべてについて入学後の活動を実施することで入学当初より向上している。

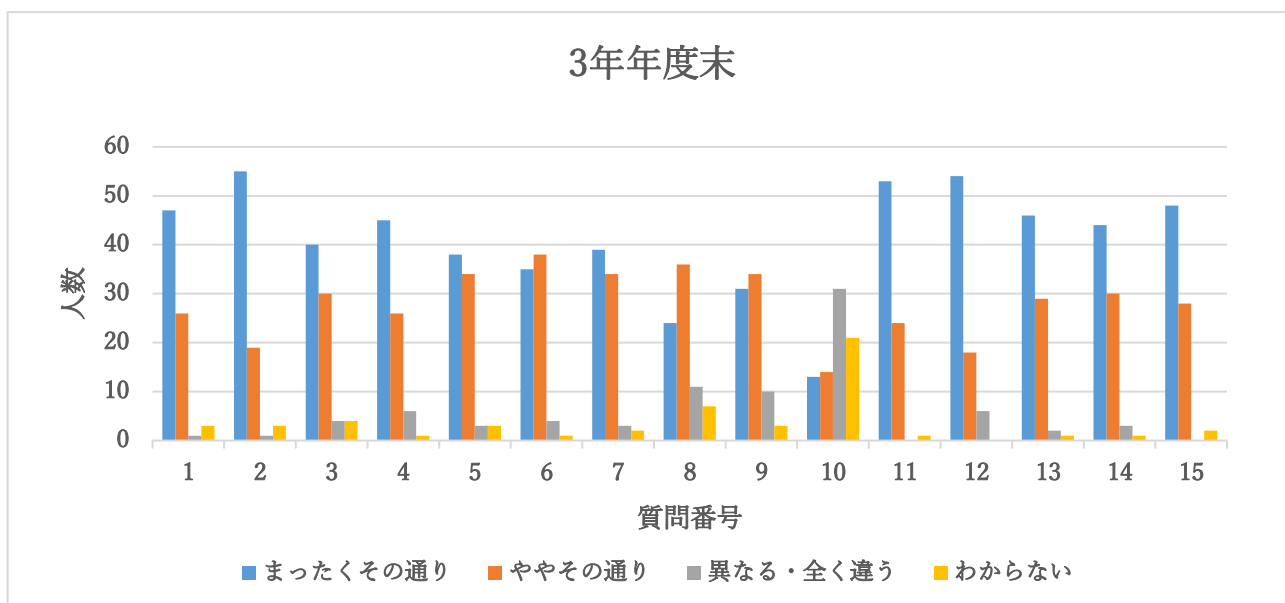




2年生について

・1年間探究活動について、その基礎を学習したが、2年当初は約80%程度の生徒が、わからないと回答している。しかし年度末にはすべての項目について60%から70%の生徒が肯定的な回答を行った。2年になり、本格的な探究活動が実施され1年次で学習した探究活動の基礎をもとに2年次の探究活動が実施された成果である。





3年生について

・3年生についても2年生と同様の結果がでている。年度当所のアンケートでは、本校の目標達成を確認するすべての項目において70%から80%の生徒が「わからない」と回答している。2年間の探究活動について全く成果がなかったのかと疑問を持つ回答であった。

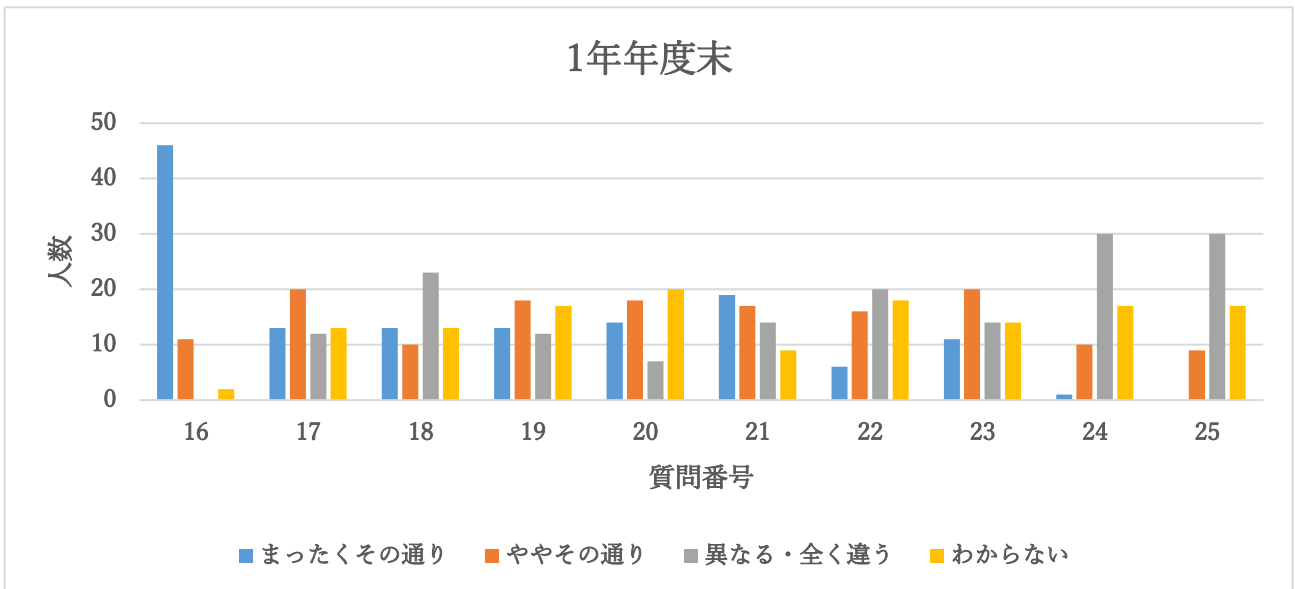
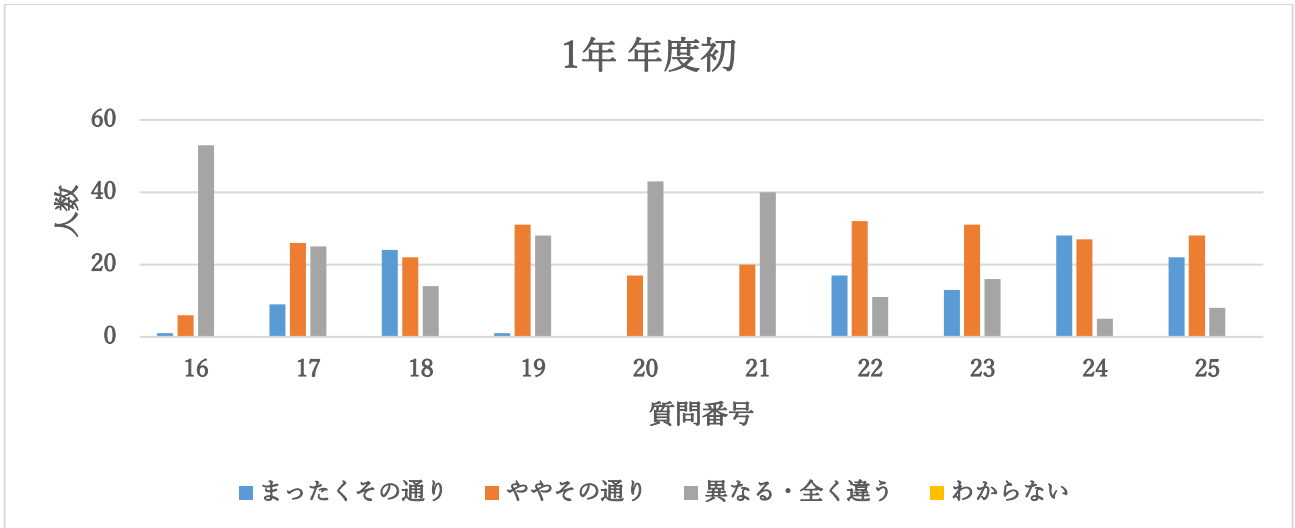
・年度末のアンケートでは80%を超える生徒が肯定的な回答をしている。2年生と大きくことがる点は、肯定的な回答のなかで、「まったくその通り」と回答している生徒の割合が上昇しており、肯定的な回答の50%以上を占めている。中でも協働力・興味・関心の項目は非常に高い肯定感を持っている。

・事業の目的の1つでもある、地元への就職・将来的に山梨へ戻りたいか、への回答は否定的な考えが多い。

・全体的に3年生は、充実した探究活動を3年間実施し、各生徒が自身の目標へこの探究活動の経験を基に取り組むことができ、大きな成果を残すことができたと考える。

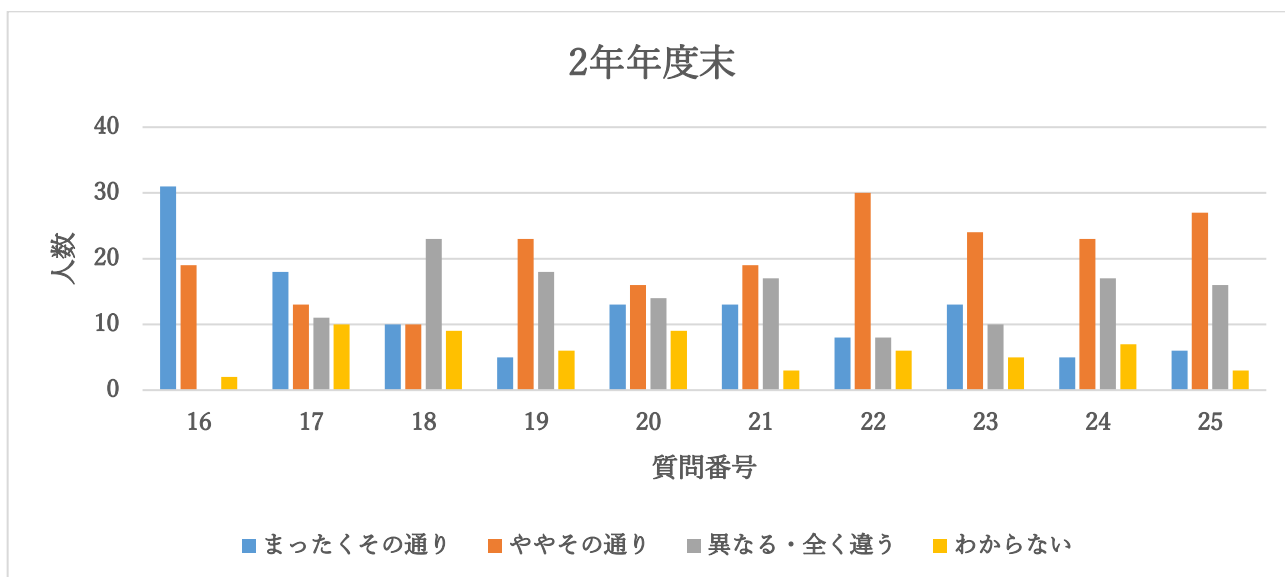
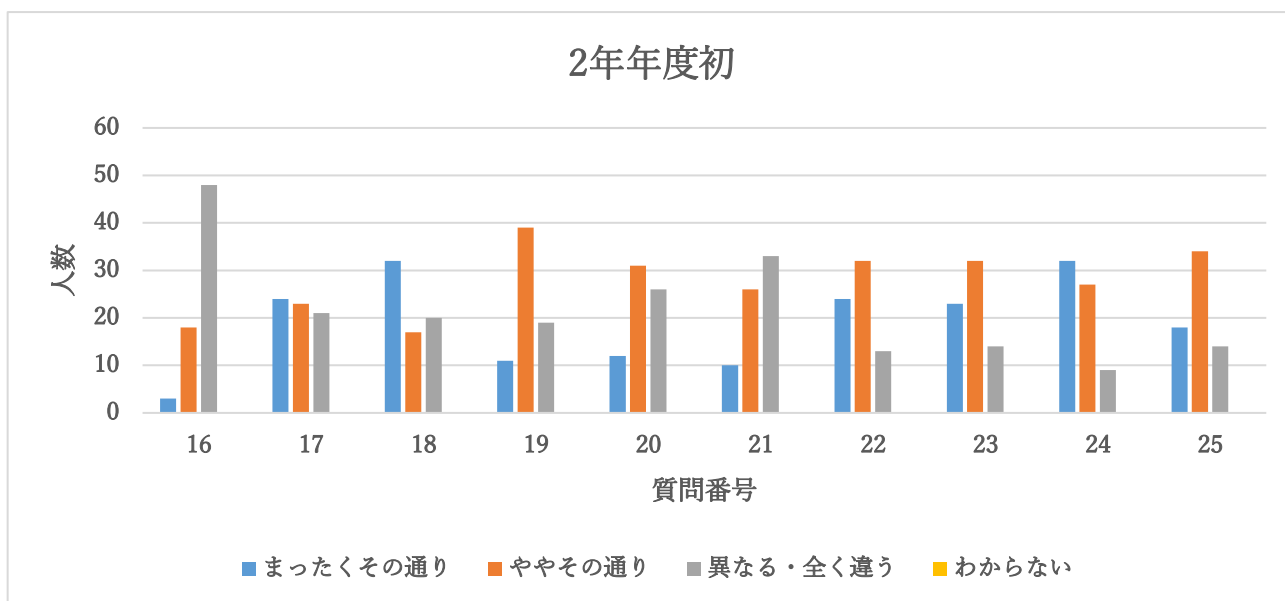
【意識の変化・英語に関する項目】

- 16 グローバルな意識を持つことは今後の社会(どのような職種)においても大切である。
- 17 グローバルな進路・職種・を将来考えてみたい
- 18 海外の大学へ留学・進学したいと思う。
- 19 探究科の活動を通して郷土愛が深まると思う。
- 20 自身の進路に良い影響がでそうである。
- 21 英語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝えたいと思う。
- 22 トピックが身近であれば、長い話や複雑な議論を英語で理解できる。
- 23 標準的な英語であれば、ネイティブ同士の会話の要点を理解できる。
- 24 なじみのあるトピックなら、ニュースの要点について、英語で議論できる。
- 25 事前に用意されたプレゼンテーションを流ちょうに行い、質問にも対応できる。



1年生について

・グローバルな意識を持つことにたいして、否定的な回答が85%程度あったが、年度末では逆転し、90%を超える生徒が肯定的な回答をしている。郷土愛・進路への影響・英語を使うことについて年度初めは否定的な回答が多かったが、年度末では進路に探究活動が大きく関係していると回答する生徒が60%おり、3年生の探究活動の成果と進路実績についての関係を見ての回答ではないかと考える。

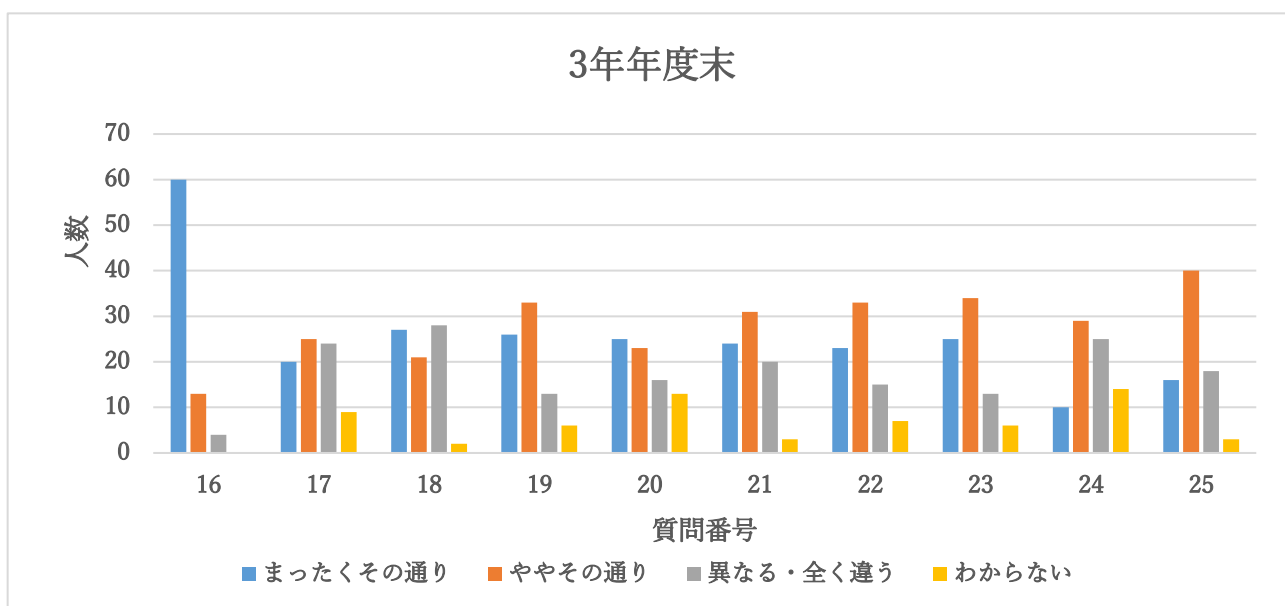
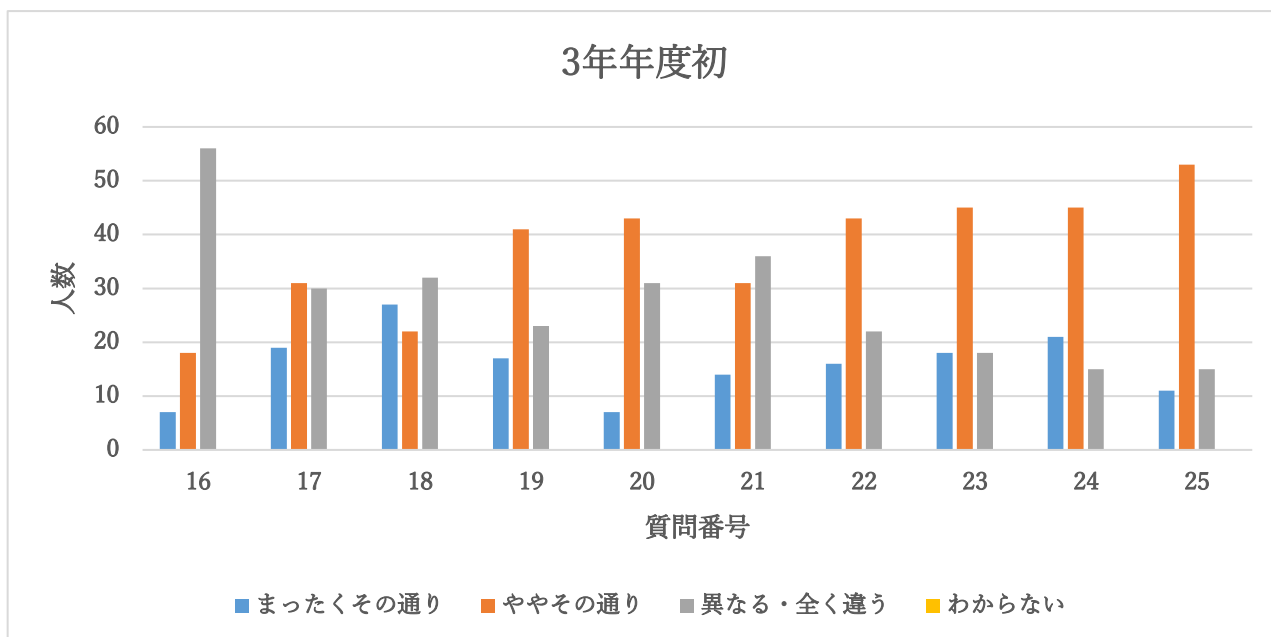


2年生

・1年生と同様の結果が出ている。グローバルな意識をもつことについて、年度初めのアンケートではグローバルな意識を持つことについて否定的な回答が多かったが、(70%) 年度末では肯定的回答が70%を超え、「まったくその通り」と回答している生徒は44%であった。

・英語についての項目で、自信をもって英語を使うことのできる生徒は増加していないが、多少自信をもって英語を使うことができるようになっている。

・英語を使つてのプレゼンについて年度初めより年度末の回答のほうが否定的回答者が8パーセント程度増加している。来年度へ向けた課題ではないだろうか。



3年生について

・3年生についても1・2年生と同様、グローバルな意識について年度初めは68%の生徒が否定的な回答をしていたが、年度末には否定的回答は2%まで減少した。

・アンケート項目全体として年度末の回答において「わからない」と回答した生徒がすべての質問項目で割合としては、数%であるが増加した。

2. 管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・運営指導委員会，コンソーシアム推進協議会の運営・連絡調整
- ・行政との連携に関わる連絡・調整
- ・コロナ禍における事業変更等における指導・助言
- ・予算執行に関わる指導・助言

②事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・本校では特に1年次の段階での探究の基礎基本の習得を目指してワークシートの開発に力を入れている（完了報告書に記載予定）。
- ・コンソーシアムを構築し，行政（県農政部や知事政策局等）との関わりを持つ中で，社会課題を共有し，双方向のメリットを模索しながら友好的な関係性が保たれている。また，地域活性化や国際社会の様々な課題（SDGs）を見据え，協働して取り組むことが可能である。
- ・地域協働学習支援員の役割は，事業終了後も地域との協働学習の窓口として期待できるため，本校同窓会事務局長の役職にあたる方をお願いしたい。
- ・同じく，保護者会（PTA）から講師をお願いする機会も多く，教育活動の資源として双方向にメリットを求め関係性の構築に努めている。
- ・様々な教育助成事業があり，不安定な社会構造を見据える教育界のニーズに照らし合わせて助成を得ることも可能と考える。

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

令和2年3月24日，本校は，山梨大学生命環境学部と「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の実施に際し，高校教育と大学教育の連携を促進，多様化する高校と大学の教育を円滑に接続することにより，高校の教育の改善充実を図ること及び生徒の将来の進路選択に資するために覚書を交わす。（有効期限は令和4年3月31日）なお，内容は以下のとおりである。

- 1 カリキュラム開発への協力
- 2 学習支援
- 3 運営指導
- 4 カリキュラムの評価
- 5 その他 本事業推進に関する事項

7 研究開発の実績

(1) 実施日程 *主だった実績のみ記載。なお，コロナ禍で5月下旬まで一斉休校

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会				○								(○)
コンソーシアム推進協議会				○								(○)
連携大学講座					1回	1回	1回	1回				
行政との連携講座					1回	1回						
イングリッシュプレゼンテーションセミナーの実施						2回						
国際競争力スキルアップ講座							1回	2回	3回	(2回)	(2回)	

その他の講座、 セミナー等開催			1回	1回			2回			(1回)	(4回)	
国際未来探究フ ォーラムの開催						2回						
その他フォーラ ムの実施					1回							
実地調査探究活動			コロナ禍において県外は実現せず。県内では時期やエリアを選択しながら通年実施									
発表会の実施			2回			1回				(2回)		(1回)
研修旅行									○			
企業訪問の実施			コロナ禍において再三延期を試みるも実現せず							(1回)		
Y-NEXT プログ ラム							2回				(1回)	(1回)

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

各班の取り組み一覧 (①は1班を示す)

- 1年①英語苦手意識の払拭 ②コロナ禍による生活習慣の変化で低下した睡眠の質改善 ③生産量に比して少ない桃消費の改善 ④小水力発電も農業も人手不足なことの改善 ⑤LGBTQを受け入れてもらうには ⑥昇仙峡地域～金峰山へ通じる古道の保全と再興 ⑦子どもの気の休まる環境が少ない ⑧お昼寝による午後の集中力向上 ⑨甲府の魅力を再発見～誰からも愛される街を目指して～ ⑩遠隔医療は有効かつ可能な医療行為なのか？ ⑪ストレス改善 ⑫プラガール
- 2年①Spreading "Online Classes" ②Beat COVID-19 ③Gathering People ④Disaster Prevention, of the Inexperienced, By the Inexperienced, for all the people ⑤Kindness For LGBT ⑥Children×Elderly×Vacant house ⑦Why does plastic waste increase? ⑧Possibility of power saving ⑨Digital Detox in Yamanashi ⑩Can You SPEAK English? ⑪Small hydro power generation ⑫TANADA! ⑬Know Visit Pass Shosenkyo ⑭Interest of Nature ⑮To improve Takeshima island problem
- 3年①災害による PTSD とアートセラピーの探究 ②山梨県の雇用問題について ③紙資源の問題について ④振動は発電の時代へ ⑤昼寝でお目目ぱっちり生活 ⑥小水力発電の普及×エネルギー問題 ⑦竹の利用～南部町における竹問題の解決～ ⑧効果的な広告 ⑨脱! “コミュ障”～よいコミュニケーションがよい仕事をつくる～ ⑩コイ×コメ ⑪ポリフェノールの可能性 ⑫海なし県に海をつくろう!プロジェクト ⑬甲府市フォトログゲイニング ⑭子どもの貧困とコミュニケーション能力 ⑮海の豊かさを守ろう～山梨県×海洋汚染～ ⑯若者の主体性を育む地域社会 ⑰はねだし桃を活用した新しい商品の開発
- ②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け (各教科・科目や総合的な学習 (探究) の時間, 学校設定教科・科目等)
- 1) 「総合的な学習の時間」を「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に代替 (1・2・3年次)
 - 2) 「社会と情報」(2単位)のうち1単位を「グローバル探究Ⅰ」に代替 (1年次)
 - 3) 学校設定科目として「Advanced Practical English」(4単位) (2年次)
 - 4) 学校設定科目として「グローバル公共」(1単位) (2年次)
- ③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ, 教科等横断的な学習とする取組について
- ・教科英語の実践とし, 身近な社会問題をトピックに上げた教材を作成し, ALT と協働しながらの英語でのポスター作成を取り入れ, そのソフト (パブリッシャー) が探究ポスター作成のベースとなっている。

- ・教科国語の実践とし、プレゼンの仕方、効果的な聞き方、構成を意識して書く、といった力の育成に努める。また、英語科 ALT とともに共同しながら推進した。
- ・教科理科（科学と人間生活）において、実験、実習を通じてデータの作成、プレゼンの方法等の育成に努めた。
- ・教科芸術（美術）とし、視覚伝達デザインの授業においてポスターを作成。その原理や効果的な表現技術を習得させた。
- ・その他、すべての教科において横断的思考が働くと考えられる。逆に、探究活動が教科学習にも横断的に反映することが認められる。

④類型毎の趣旨に応じた取組について 【グローバル型】

- ・計画段階ではイングリッシュキャンプを計画していたが、コロナ禍で泊を伴わない「イングリッシュプレゼンテーションセミナー（理論／実践）」に代替した。「理論編」では大学教授にプレゼンテーションの在り方を細部に渡ってレクチャーいただき、それを受けた「実践編」では、海外交流アドバイザーにより県内高校 ALT 8 名を派遣していただき、2 年生各 15 班に対し、細かな指導を行った。
- ・従来であれば本校研修旅行（フィリピン・セブ島）にて学校や日系企業に赴き、探究成果を現地で発表し、ディスカッションを通じて実践的なコミュニケーション能力を育むのであるが、本年度はコロナ禍で代替事業「Door Global Program —探究科イングリッシュプレゼンテーション&海外講師と語る SDG s」を実施。SDG s に特化された海外講師 1 1 名を招聘し、同じく 2 年生各 15 班はブースに分かれ、成果発表並びに SDG s をテーマにしたディスカッションで同等の力を養うことができた。
- ・国際コンテストや他各種コンクールへの応募は 2 年次の必須項目である。ほとんどのコンクールがオンライン化されたが、積極的に応募を試みた。（成果は下記参照）
- ・本校は、「本当の情報は現場の空気の中に漂っている」をキャッチコピーに 1 年次より実地調査を必修化している。コロナの影響で滞った時期が長かったが、県内を中心にグローバルな現場の生の情報に触れ、探究を深めた。
- ・コンソーシアムとして連携している県立笛吹高校では県産シャインマスカット（葡萄の品種）の台湾への輸出演習に取り組んでいる。昨年度は本校生徒代表が基礎中国語を習得したうえ同行し、成果を共有した経緯を持つ。本年度は実施できなかったため、来年度に期待している。そこで「国際競争力スキルアップ講座」として、1 年生希望者 17 名に対し、中国語特別講座を開講した。台湾研修を視野に入れつつ、国際社会の中で中国語に親しむ意義は大きいと考える。

⑤成果の普及方法・実績について

- ・出前授業とし、コンソーシアムをはじめとするの小中学校へ出向くことを計画
- ・コンクールへの参加（論文含む）を促し情報と探究成果を発信する
- ・3 年次実施の「ファイナルプロポーザル（提案活動）」において探究成果を地域へ還元
- ・主体的校内組織「とびらプロジェクト本部」による国際探究未来フォーラムの実践、及び「情報戦略班」による Youtube による情報発信、Social media 班による SNS を媒体とした情報発信を本年度新規に立ち上げる。

〈本年度実績〉

- ・学教育振興財団助成 中谷医工計測技術振興財団「成果発表会（東日本大会／仙台）小水力発電×エネルギー問題」

1 2月27日(日) "zoomにて実施

- ・短期留学 トビタテ留学 JAPAN 前年度1年5名が申請するもコロナの関係で中止
- ・助成事業 本田トモダチプロジェクト前年度生徒2名が申請するもコロナの関係で中止
- ・Y-NEST イノベーションコンテスト(本選) 7月19日(日) 山日 YBS ホール 「お昼寝普及委員会」最優秀賞, 「本栖湖に海をつくろう」優秀賞, 「関係性の貧困」はくばく賞
- ・第20回高校生地球環境論文賞(中央大学主催) 5名が入選
- ・第15回龍谷大学高校生ビジネスアイデアコンテスト(本選) (龍谷大学主催)
「空き家から始まる新たなコミュニティ」プレゼンテーション一般高校生の部優秀賞
- ・2020地域活性化コンテスト「田舎力甲子園」(福知山公立大学主催)「TANADA! Restoration of "YUI community"」奨励賞を受賞
- ・WWL・SGH×探究甲子園2021(予選)(関西学院大学・大阪大学・大阪教育大学主催)「Can you SPEAK English?」書類選考通過、本選出場(2021年3月21日予定)
- ・Mt Fuji イノベーション スタート部門「シエスタ プロジェクト」第3位入賞

(3) 研究開発の実施体制について

- ①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制
 - ・運営指導委員会及びコンソーシアム協議会における検証, 評価活動
 - ・カリキュラム開発等専門家・戸田達昭氏による専門的なアドバイス
- ②学校全体の研究開発体制について(教師の役割, それを支援する体制について)
 - ・1~3年の全44班に対し探究顧問を配置。教科の特性を生かした専門的なアドバイス及び渉外業務を担当する。また, 2年生15班に対し英語顧問を配置。英語プレゼンテーションの指導を担当する。
 - ・校内探究科運営指導委員会を設置し定期的に開催。校内探究科で取り組む指定事業を多面的に検証し, 有意義かつ効率的な運営を目指す。
- ③学校長の下で, 研究開発の進捗管理を行い, 定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ, 計画・方法を改善していく仕組みについて
 - ・指定事業担当教頭を配置する。また, 統括主任として探究科主任を配属し, 探究推進主任をリーダーに, 7名のスタッフ教員で実際の校内運営を行っている。なお, 週例の打ち合わせと管理職はじめ関係部署(コンソーシアム含む)への報告, 連絡, 相談体制を整えている。
 - ・学校評価委員会による探究活動の評価, 改善の試み
- ④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について(代表例)
 - ・中学校との交流プレゼン並びに小中学校への出前授業の実践(双方向学習に向けた良好な関係性の構築)
 - ・県農政部との県産品の販売に関する本校生徒との協働的な情報発信の実践及び連携開発の取り組み